

ア－1

その他ア

新たな時代に対応した都市づくりのあり方について(報告)

1. これまでの経緯

		年月日	内 容
平成29年度 第3回 都市計画審議会		平成30年1月31日	・現行プランの中間評価（報告） ・新たな時代に対応した都市づくりのあり方（諮問）
新たな都市づくり検討部会	第1回	平成30年5月25日	・これまでの取組、取り巻く状況 ・めざすべき方向性 ・都心部のまちづくりの方向性
	第2回	平成30年7月30日	・都市づくりの目標、方針 ・将来都市構造の考え方 ・都心部における拠点のまちづくり
	第3回	平成30年9月19日	・将来都市構造 ・都心部における軸、界限、拠点連携のまちづくり
	第4回	平成30年11月14日	・中間とりまとめ（案） ・都心部まちづくりビジョン（案）
平成30年度 第2回 都市計画審議会		平成30年11月16日	・中間報告
市民 ワークショップ		平成30年11月1日 他、計4日間	・名古屋のまちのこれからについてのディスカッション

2. 新たな都市づくり検討部会 委員名簿

（敬称略・五十音順）

氏 名	役 職 等	備 考
え ぐち しのが 江 口 忍	名古屋学院大学現代社会学部 教授	
たか とり ち か 高 取 千 佳	名古屋大学大学院環境学研究科 助教	
とく やま み つ え 徳 山 美津恵	関西大学総合情報学部 教授	
ひで しま えい ぞう 秀 島 栄 三	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授	・都市計画審議会委員
ふく しま いげる 福 島 茂	名城大学副学長・都市情報学部 教授	・都市計画審議会会長 ・部会長
まつ もと ゆき まさ 松 本 幸 正	名城大学理工学部 教授	
むら やま あき と 村 山 頭 人	東京大学大学院工学系研究科 准教授	
よし むら てる ひこ 吉 村 輝 彦	日本福祉大学国際福祉開発学部 教授	

3. 今後の予定

年 度	事 項		内 容
平成30年度	市民意見募集		・都心部まちづくりビジョン（案）について
	都心部まちづくりビジョン 公表		
	部会	第5回	・分野別の施策
平成31年度	部会	第6回	・答申素案
	平成31年度 第1回 都市計画審議会		・答申素案（中間報告）
	部会	第7回	・答申案
	平成31年度 第2回 都市計画審議会		・答申
	市民意見募集 （パブリック コメント）		・名古屋市都市計画マスタープラン案
平成32年度	名古屋市都市計画マスタープラン 公表		

新たな時代に対応した
都市づくりのあり方について（中間とりまとめ）（案）

名古屋市都市計画審議会

目 次

1 前提条件の整理

- 1-1 位置づけ
- 1-2 策定の目的
- 1-3 目標年次
- 1-4 対象区域

2 市を取り巻く状況

- 2-1 位置と地形
- 2-2 都市づくりの変遷
- 2-3 時代の潮流
- 2-4 名古屋の特徴

3 都市づくりの目標

- 3-1 国土レベルの計画（広域的な視点）
- 3-2 上位に位置する計画
- 3-3 関連計画からの示唆
- 3-4 都市づくりの目標

4 将来都市構造

- 4-1 基本的な視点
- 4-2 都市づくりの目標の構造化
- 4-3 将来都市構造図
- 4-4 ゾーン毎の将来イメージ

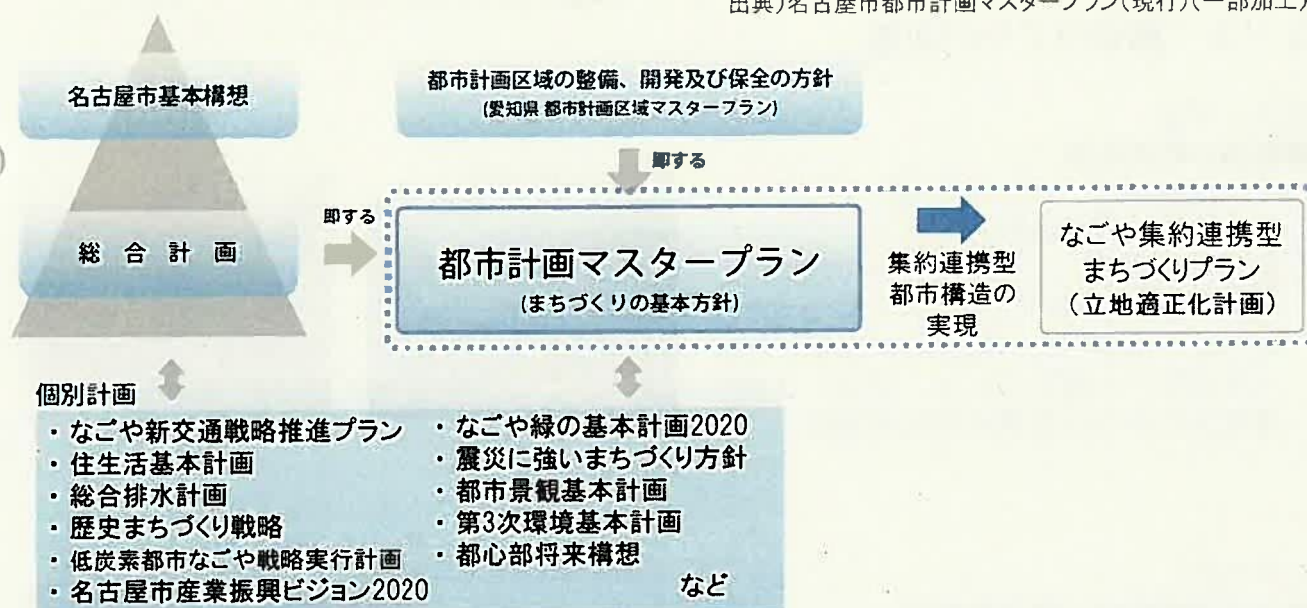
本書は、名古屋市の次期都市計画マスタープランを策定するにあたっての基本的な考え方となる、「新たな時代に対応した都市づくりのあり方」の中間的なとりまとめを行うものである。

1 前提条件の整理

1-1 位置づけ

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、市の総合計画や個別計画との関係は、下図のとおり。

出典)名古屋市都市計画マスタープラン(現行)(一部加工)



1-2 策定の目的

- 長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示す。
- 地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりを進めるガイドラインとする。

1-3 目標年次

目標年次は、概ね20年の長期的な見通しのもとに、2030年とする。

1-4 対象区域

名古屋市全域を基本とし、広域的な交流・連携についても考慮する。

2 市を取り巻く状況

2-1 位置と地形

名古屋市は、地理的に日本のほぼ中央に位置し、中部圏の中核となる都市としての役割が期待されている。地形は、東部はなだらかな丘陵地、中央部は北から南になだらかに傾斜する平坦な台地、北・西部の沖積地は肥沃な濃尾平野の一部、南部は干拓事業により開発された地域で平坦な低地となっている。

第三紀層
第四紀層・洪積層（高位）
第四紀層・洪積層（低位）
沖積層（斜線部は0m以下）



2-2 都市づくりの変遷

古代～中世

●熱田の町の形成

- ・ 5～7世紀頃、豪族の尾張氏が台頭し、この地域一帯を支配してきた。
- ・ 尾張氏の墳墓とされる東海地方最大の断夫山古墳や尾張氏の祀神をまつた。熱田社がつくられ、社を核に次第に発展
- ・ 上志段味や大高近辺には、伝承とともに尾張氏ゆかりの古墳や神社が存在。

■熱田社(熱田神宮)



■断夫山古墳



江戸時代

●名古屋城築城と城下町形成

- ・ 1610（慶長15）年、戦国の乱世を制した徳川家康は、名古屋台地の北端に名古屋城を築き、尾張の中心であった清須城下町を名古屋に移転（清須越）。
- ・ 現在の名古屋の原型となる基盤型の町割りが形成。
- ・ 城下町の物流を支える堀川が開削され、本町通とともに、古くからの交通の要衝であった熱田のまちと城下町を接続。

■江戸時代の都市構造

出典)名古屋城絵図(徳川美術館蔵)をもとに作成



明治～大正～戦前

●巨大インフラの整備とものづくり産業都市としての開花

- ・ 鉄道、道路、港湾、運河などの都市の骨格となるインフラの整備が進捗。
- ・ インフラ整備を背景に、ものづくり産業都市として大きく発展。

■開削当時の中川運河



■名古屋停車場(名古屋市交通局蔵)



戦後

●戦災復興と大都市への発展

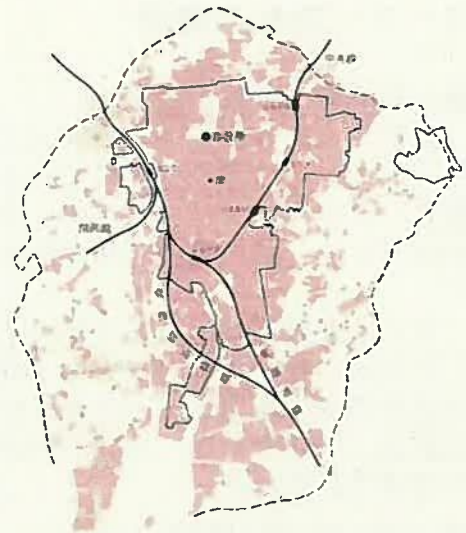
- ・被災地の大部分を対象とした大規模土地区画整理事業の実施により都市基盤を整備。
- ・市民の協力を得て、100m道路の整備や市内の墓地の平和公園への集団移転など大胆な都市計画を実現。

■昭和30年頃の久屋大通



■復興土地区画整理事業施行区域

- 昭和20年の市域 (16,176ha)
- 施行区域 (3,491ha)
- 戦災消失区域 (3,858ha)



高度成長～低成長期

●人口増加やモータリゼーションへの対応

- ・組合土地区画整理による郊外部の宅地開発や車社会に対応した道路整備を実施。
- ・課題地区への総合的な取組を実施。
(地区総合整備)

赤: 名古屋環状2号線(1967(S42)都市計画決定)

青: 都市高速道路(1970(S45)都市計画決定)

■名古屋都市計画図(S38)



■土地区画整理事業施行区域



- 新法の組合施行土地区画整理
- 旧法の土地区画整理
- 耕地整理
- 公共団体等施行土地区画整理

平成

●都市再生の推進

- ・少子高齢化の進展や国際競争の激化等、社会・経済の大きな転換期を迎える中で、官民連携のもとで都市再生を推進。
(都市再生緊急整備地域の指定、立地適正化計画の策定等)

■都市再生緊急整備地域の指定状況

地域名	面積	当初指定
名古屋駅周辺・伏見・栄	約401ha	H14. 7
名古屋臨海	約145ha	H14.10
名古屋千種・鶴舞(H29.8解除)	約 24ha	H14.10

■都市機能誘導区域



●市域の拡大と人口の増加

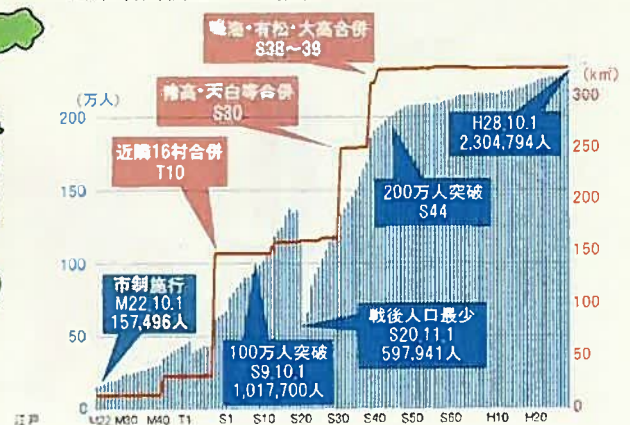
- ・近隣市町村との合併により市域の拡大がすすむとともに、人口も市制施行から現在は約15倍に増加。

■市域の変遷



- 明治時代
- 大正時代
- 昭和時代
- 大正から昭和にかけて拡張

■市域面積と人口の推移



2-3 時代の潮流

●人口構造・動態の変化

本市の人口は2022年にも減少に転じる見込みで、人口減少は広域で見るとより顕著。年少人口及び生産年齢人口の比率が低くなり、益々高齢者率が高まってい

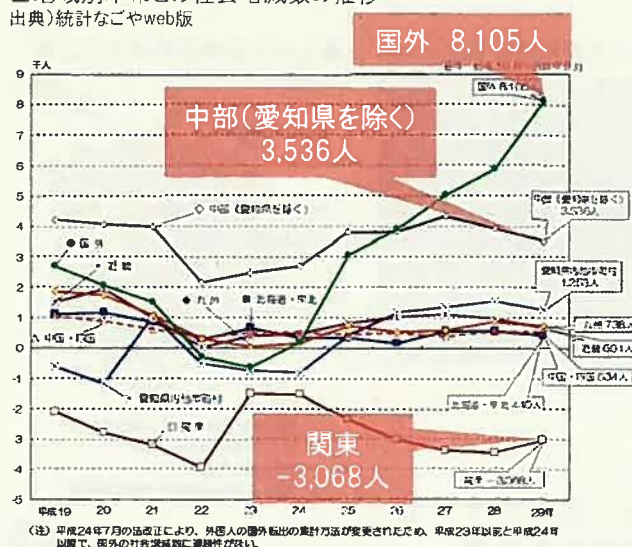
く。

また、高齢世帯の占める割合も増加。

本市との社会増減の状況は、関東以外の地域では社会増で、国外からの社会増が最多。対関東では、平成24年度以降、社会減が拡大傾向。

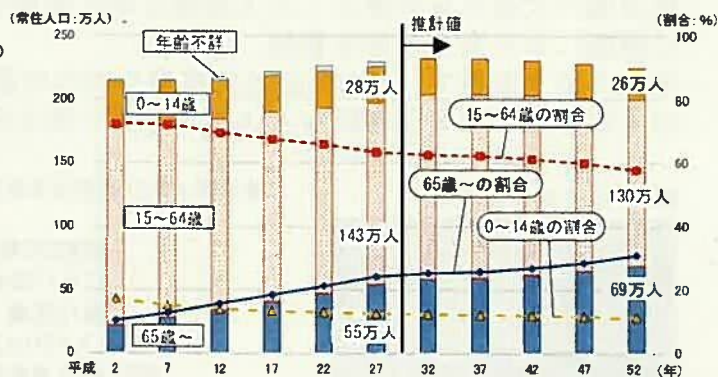
■地域別本市との社会増減数の推移

出典)統計なごやweb版



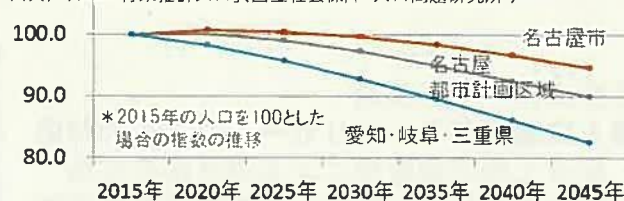
■本市の年齢3階級別人口

出典)実績値:統計なごやweb版(国勢調査結果より作成)
推計値:名古屋市推計(平成29年10月1日時点)



■広域的な人口増減率(推計)

出典)「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



■本市の世帯の家族類型別世帯数

出典)国立社会保障・人口問題研究所



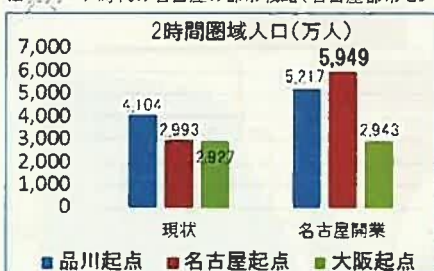
●リニア中央新幹線の開業、スーパー・メガリージョンの形成

リニア開通により三大都市圏それぞれの交流圏域は大きく拡大。とりわけ、名古屋駅を起点とした2時間圏域人口は約6,000万人と最大規模になると試算。

また、リニア中央新幹線により三大都市圏が一体化した世界最大の広域経済圏であるスーパー・メガリージョンが形成。

■交流圏域の拡大のイメージ(名古屋-品川開業時)

出典)リニア時代の名古屋の都市戦略(名古屋都市センター)



●産業構造の転換、自動車産業における変革

イノベーションにより、新たな社会の実現が可能に。産業構造や就業構造に劇的な変化をもたらす可能性。

■産業界における技術革新

出典)第四次産業革命の進展と産業・就業構造の変化(経済産業省)

- ・ 実社会にあらゆる事業・情報が、データ化・ネットワークを通じて自由にやりとり可能に(IoT)
- ・ 集まった大量のデータを分析し、新たな価値を生む形で利用可能に(ビッグデータ)
- ・ 機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断が可能に(AI)
- ・ 多様かつ複雑な作業についても自動化が可能に(ロボット)

■自動車産業を取り巻くメガトレンド(CASE)

出典)経済産業省の自動走行とデジタルガバメントに向けた取り組み(経済産業省)

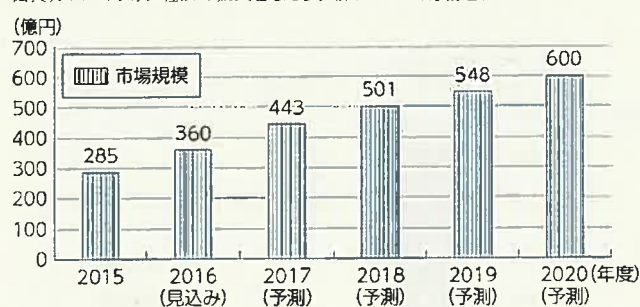


●価値観や働き方等の多様化

シェアリングエコノミー(個人等が保有する活用可能な資産等を、インターネット上のマッチングプラットフォームを介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動)の国内市場規模が、近年大きく拡大し、今後もその傾向が続くと推計。また、ICTを活用し、時間と場所にとらわれないテレワークを実施している企業も近年上昇傾向。女性の社会進出に伴い、共働き世帯の割合も増加。

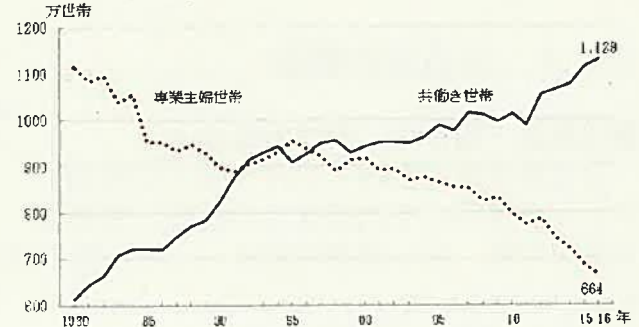
■シェアリング・エコノミーの国内市場規模推移と予測

出典)スマートフォン経済の拡大をもたらす新サービス(総務省)



■全国の共働き世帯の増加

出典)国勢調査(総務省)

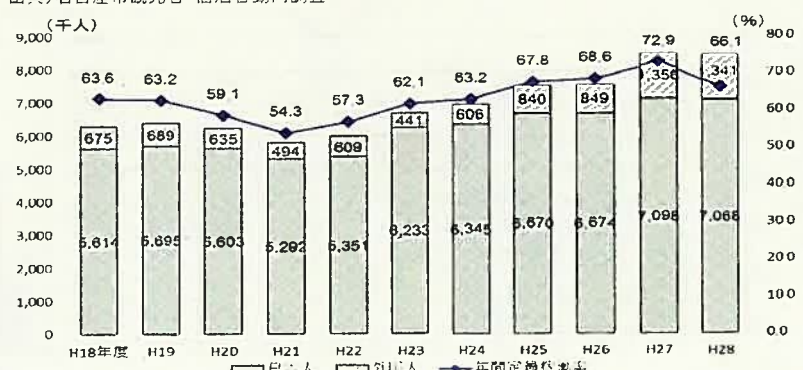


●観光需要の高まり

本市への観光客数も増加傾向。アジア諸国の経済成長を背景に、今後も増える可能性。

■本市の宿泊施設の宿泊客数 延べ人数の推移

出典)名古屋市観光客・宿泊客動向調査



●激甚化する自然災害

近年、大規模な地震が多く発生しており、南海トラフにおいて、M8～9クラスの地震が発生する確率は、30年以内に70～80%と予測。本市の震度分布の想定は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの場合、市域ほぼ全域に震度 6弱、6強、港区をはじめとした一部地域で震度7とこれまでに経験のしたことのない被害の発生が想定。

豪雨災害について、約30年前と比較して豪雨の発生回数が顕著に増加するなど、短時間に強い雨が降る傾向。

■あらゆる可能性を考慮した最大クラスの震度分布
出典)南海トラフ巨大地震の被害想定について
-震度分布、津波高等-(名古屋市)



■本市の20年ごとの1時間降水量50mm以上の発生回数
出典)名古屋地方気象台観測値より名古屋市作成



●都市の持続性に対する意識の高まり (SDGs等)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」記載された国際目標であるSDGsの達成に向けた取組が国レベルで進行。

■持続可能な開発目標(SDGs)
出典)外務省資料



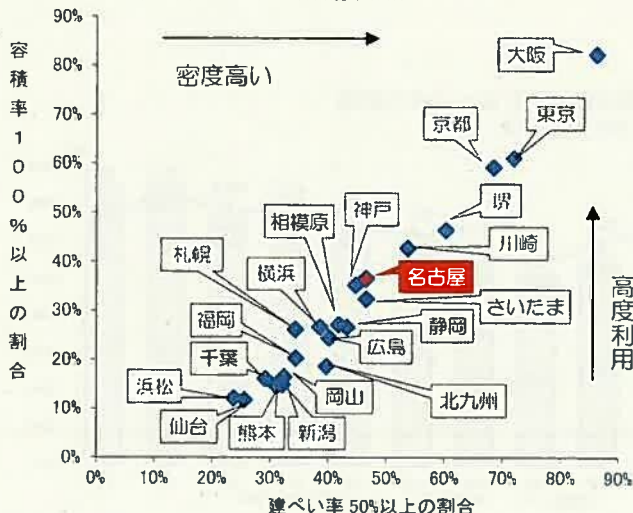
ロゴ 国際連合センター作成

2-4 名古屋の特徴

●空間的・時間的・経済的なゆとり

名古屋市は大都市でありながら空間的なゆとりがある。また安定した雇用、比較的安価な地価、短い通勤時間といった特性を有す。

■建ぺい率、容積率の使用状況
出典)住宅・土地統計調査(H25)より名古屋市作成



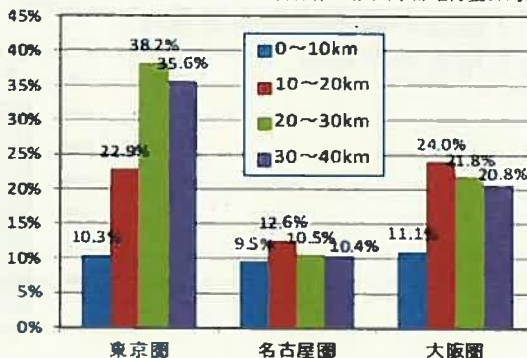
■住宅地平均価格

出典)ものづくりの現状とリニア中央新幹線の効果(中部地方整備局)



■距離帯別通勤時間1時間以上の割合

出典)ものづくりの現状とリニア中央新幹線の効果(中部地方整備局)



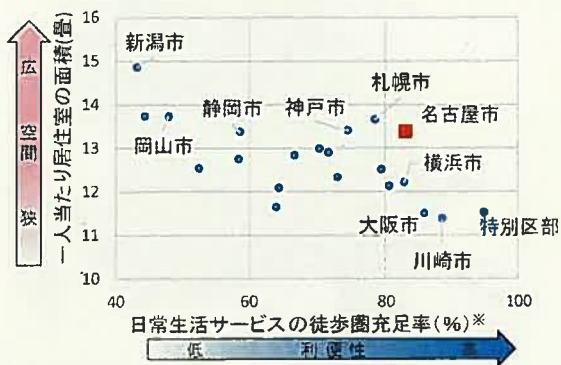
出典: 総務省「住宅土地統計調査」(H25)

●充実した都市基盤・施設

道路をはじめとした都市基盤が充実し、また、商業・医療・福祉等の日常生活サービスが充実するなど生活利便性が高い。

■日常生活サービスの利便性

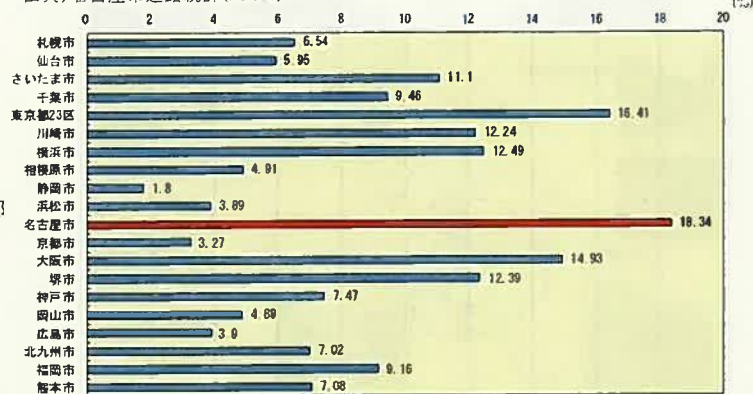
出典)都市構造評価ハンドブック(H26.8)、住宅・土地統計調査(H25)
より名古屋市作成



※日常生活サービスの徒歩圏充足率
商業、医療、福祉、公共交通(30本/日以上)の各施設の徒歩圏
(半径800m)に居住する市民の割合

■道路率

出典)名古屋市道路統計(H29.4)



●豊富な歴史資源、緑・水辺空間

名古屋市は三英傑ゆかりの地であり豊富な歴史資源を有し、また広域的な集客力を有する魅力的な緑・水辺空間を有す。

■市内の主な歴史資源、緑・水辺空間、文化・観光施設



●名古屋大都市圏に見る豊富な観光資源

市名古屋大都市圏(以下、圏域という。)は、名古屋市中心におおむね30〜50kmとしつつ、産業、観光、防災などの分野ごとに柔軟に捉える範囲
圏域には、風光明媚な自然環境や全国的な観光名所が数多く存在。

■圏域における観光資源

出典)名古屋大都市圏有識者検討会議



■昇龍道モデルコース

出典)中部運輸局HP



●ものづくり産業の集積

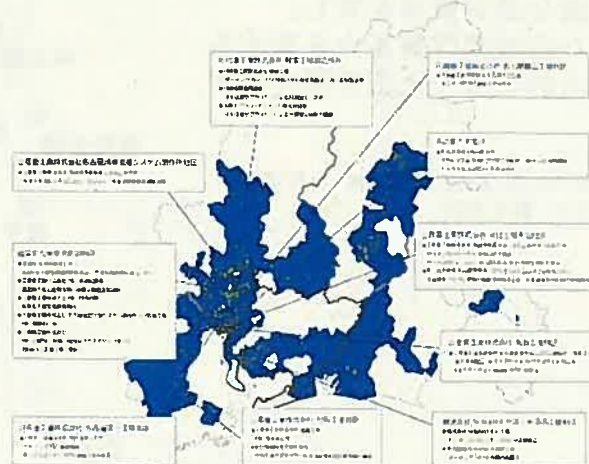
圏域にはものづくり産業を中心とした産業クラスターが広がり、サプライチェーンを形成。特に西三河に自動車産業、名古屋市をはじめ愛知県、岐阜県、三重県、長野県、静岡県に航空宇宙産業の関連企業が多く集積。

■主な企業の分布



■アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区

出典)アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区HPより(平成30年3月時点)



●陸海空のインフラの充実

国土の中心に位置する本市周辺において、高規格道路の整備が進捗。

また、圏域のものづくり産業を支える名古屋港や、国外との交流の玄関口となる中部国際空港を擁する。

■広域交通インフラの整備状況

名古屋環状2号線の西南部、南部区間
(専用部)は、2020年度に開通予定。
(市内に1Cを2箇所設置予定)



3 都市づくりの目標

3-1 国土レベルの計画（広域的な視点）

名古屋市は圏域の中核都市であり、その名古屋市を含めた以下の広域的な計画が策定されている。

●国土形成計画（H27.8 国土交通省）

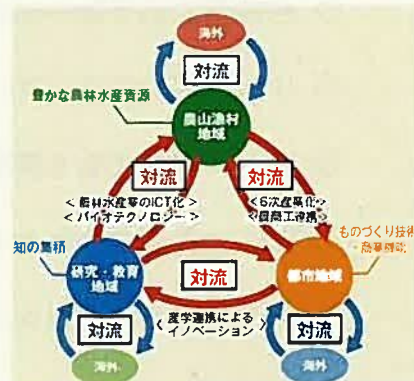
○ 今回の計画の特色

- 「国土のグランドデザイン2050」を踏まえ、
- ・本格的な人口減少社会に初めて正面から取り組む国土計画
- ・地域の個性を重視し、地方創生を実現する国土計画
- ・イノベーションを起こし、経済成長を支える国土計画

○ 計画の基本コンセプト：「対流促進型国土」の形成

- ・「コンパクト＋ネットワーク」
 - 人口減少に立ち向かう地域構造・国土構造
- ・「個性」と「連携」による「対流」の促進
 - 地域の個性を磨き、地域間・国際間の連携によって活発な「対流」を起こす
- ・「ローカルに輝き、グローバルに羽ばたく国土」
 - 「住み続けられる国土」と「稼げる国土」の両立

「対流」のイメージ：「個性」と「連携」



●中部圏広域地方計画（H28.3 国土交通省中部地方整備局）

中部圏の将来像

暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界ものづくり対流拠点-中部”

＜世界の中の中核＞

世界最強・最先端のものづくり産業・技術のグローバル・ハブ

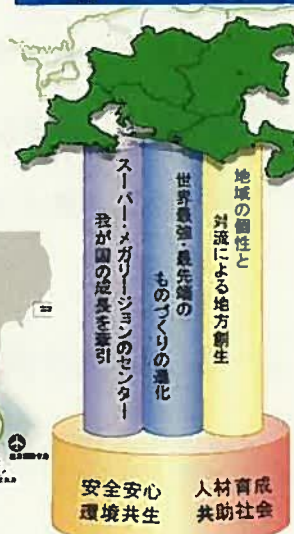
＜日本の中の中核・中核の中の人々＞

リニア効果を最大化し都市と地方の対流促進、ひとり一人が輝く中部

＜前提となる安全安心・環境＞

南海トラフ地震などの災害に強くなやか、環境と共生した国土

将来像実現に向けた基本方針



3-2 上位に位置する計画

都市計画マスタープランは、都市計画法において、市町村の基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即して定めるとされている。

●名古屋都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（案）（H30.11 愛知県）

基本理念

リニア開業によるインパクトを活かし、多様な産業と高次の都市機能が集積した世界へ飛躍する都市づくり

【将来都市構造図】



●名古屋市次期総合計画（中間案）（H30.8 名古屋市）

（まちづくりの方針）

アジア競技大会、リニア時代、人口減少社会を見据えた未来につながるまちづくり

- ◇ 名古屋の強みを最大限に引き出す
- ◇ 名古屋大都市圏の成長をけん引する
- ◇ リニア時代のリーダー都市へ
- ◇ アジア競技大会を契機に、郷土愛にあふれ世界から選ばれる都市へ
- ◇ 安心・安全で住みやすく、みんなが活躍でき、みんなを応援する都市へ
- ◇ 世界に冠たる「NAGOYA」へ

（めざす都市像）

- 都市像1 人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できるまち
- 都市像2 安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち
- 都市像3 人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち
- 都市像4 快適な都市環境と自然が調和したまち
- 都市像5 魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれたまち

3-3 関連計画からの示唆

「3-1 国土レベルの計画」、「3-2 上位に位置する計画」からの示唆を以下のようにまとめた上で、都市づくりの目標を定めるものとする。

リニア中央新幹線開業のインパクトを最大化し、世界都市としての名古屋へ飛躍するため、

- 人口減少に立ち向かい、快適に住み続けられる都市を形成
- 名古屋の個性を最大限に発揮し、グローバルな交流を促進
- イノベーションを創発し、圏域の経済成長を牽引

3-4 都市づくりの目標

時代の潮流や名古屋の特徴等を踏まえて、以下の3点を都市づくりの目標とする。

3つのライフスタイルの要素とその相乗効果

都市におけるライフスタイルの構成要素を、「暮らす」、「楽しむ」、「創る・働く」の3つに整理。

また、それぞれの質を高めていくことが相互に作用し合い、相乗効果を生み出す

外から見ても魅力的に思える都市づくりが、市民の満足感を高めるとともに来住を促す

暮らす

人間らしく健康的でワークライフバランスのとれた“Livable”な住環境が人や企業を呼び寄せる

楽しむ

アフターファイブの満喫や、気分が高揚する体験などがイノベーションの創出を促す

創る・働く

－ 暮らす（生活） －

- 人口減少により都市の活力低下が懸念され、居住と都市機能のメリハリによる活力の維持向上が必要。また、高齢者の増加や環境問題の深刻化に対応するため、環境に配慮した歩いて暮らせる空間づくりが必要
- 外国人の増加や価値観、ライフスタイル、働き方の多様化、都市の持続性への意識の高まりの中、誰もが自由で快適に生活できる、包摂性を備えた都市づくりが必要
- 激甚化する自然災害に対応した、安心して安全に住み続けられる生活環境づくりが必要

ゆとりと便利が織りなす多様で持続可能な生活空間

広い住宅敷地や、通勤時間の短さ、高く安定した所得水準等といった空間的・時間的・経済的ゆとりと、充実した都市基盤・施設という強みを生かしながら、安全で健康的な、名古屋ならではのライフスタイル空間を形成

－ 楽しむ（余暇・観光） －

- 関東等への人口流出を受け、余暇等の面からも都市の魅力を高めることが必要
- リニア開業で交流が促進され、またスーパー・メガリージョンの中で圏域の存在意義が求められる中、本市がホスピタリティを高め、また圏域の玄関口として圏域内の連携を強化することが必要
- インバウンド需要の増加が今後も見込まれることを受け、その好機を逃さず需要を取り入れ、本市の活力につなげていくことが必要

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間

市内における豊富な歴史・文化資源や魅力的な緑・水辺空間の活用や、圏域における魅力資源などを生かし、市民が憩い楽しみ、魅力に感じるとともに、来訪者がまた訪れたいと思う、名古屋の歴史と都市的魅力が融合した空間を形成

－ 創る・働く（経済・産業） －

- 生産年齢人口の減少を受け、生産性を高めるとともに付加価値の高い産業の創出が必要
- リニア開業で交流人口が拡大し、またスーパー・メガリージョンの中で圏域の存在意義が求められる中、本市がビジネスチャンスに富むとともに圏域の中核都市として多様で新たな価値の創造が必要
- 技術革新の進展により自動車産業にも大きな構造変化が予想され、今後の圏域経済の成長の岐路に立たされている状況であり、単一の産業への依存からの脱却のため、都市の魅力により多様で新たな価値を生む人材の呼び込みが必要

技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

国土の中心という地理性、陸海空の充実したインフラにより人流・物流を促し、多様な人材の集積や圏域のものづくり技術を生かした新たな価値創造による、経済力の維持・向上のための空間を形成

4 将来都市構造

概ね20年先を見据え、およそ10年間、めざすべき都市構造を示す。

4-1 基本的な視点

都市の賑わいや活力を生むための
人・もの・情報の交流による
創造的活動を生み出す都市構造

様々な人が自由に活動できるための
自動車に頼らない
歩いて暮らせる都市構造

激甚化する自然災害に
対応するための
災害リスクを考慮した都市構造

世界規模の環境問題の意識の
高まりに呼応する
環境負荷の小さい都市構造

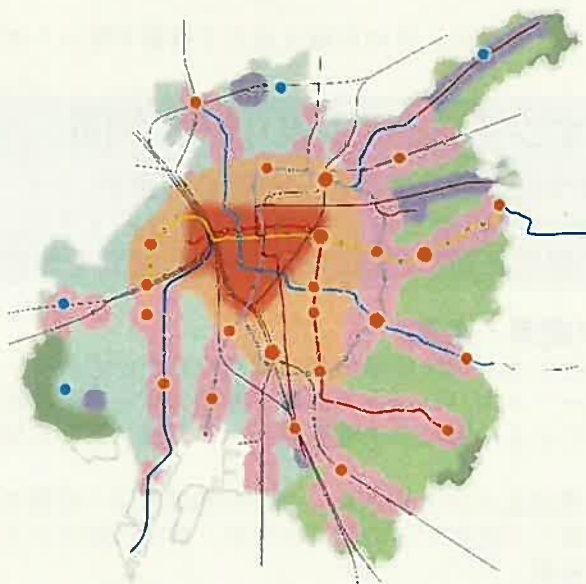
厳しい財政状況を見据えた
効率的な都市経営が
可能な都市構造

大都市における 「集約連携型都市構造」

4-2 都市づくりの目標の構造化

■ ゆとりと便利が織りなす多様で持続可能な生活空間

多様な都市機能が適切に配置・連携



- 拠点市街地 -

都心ゾーン

地域拠点

- 駅そば市街地 -

都心周辺ゾーン

駅そばゾーン

準駅そばゾーン

● 近隣拠点…一定の都市機能が集積し地域拠点を
補完している地区

○ 鉄軌道

— 基幹バス路線

- 郊外市街地 -

西部郊外ゾーン

東部郊外ゾーン

- その他のゾーン -

自然共生ゾーン

- 人口減少・高齢化を受け、公共交通を軸に居住と都市機能を集約。地域特性を生かし、価値観やライフスタイル等の多様性に対応した、包摂性のある都市構造
- 災害リスクを考慮しながら、大都市ならではの利便性と郊外的なゆとりを維持・向上させ、名古屋ライフスタイルを提供する空間を形成

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間



- 賑わい交流拠点(都心ゾーン)
- 広域的な文化交流拠点(地域拠点)
- ⇄ 名古屋城を核とした魅力軸
- 主な歴史資源
- ★ 主な観光娯楽施設
- ◆ 主な文化交流施設
- 公園・緑地
- 河川・運河
- 水辺連携軸
- ⇄ 広域連携軸
- ◆ 環境軸

- 都心を交流賑わいの拠点とし、名古屋港への水辺連携軸や、名古屋城、熱田神宮等を核に歴史軸を形成
- インバウンド増加やリニア開業、スーパー・メガリージョン形成を踏まえた、市内の魅力資源間の連携や広域的な観光連携を構築する都市構造

技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

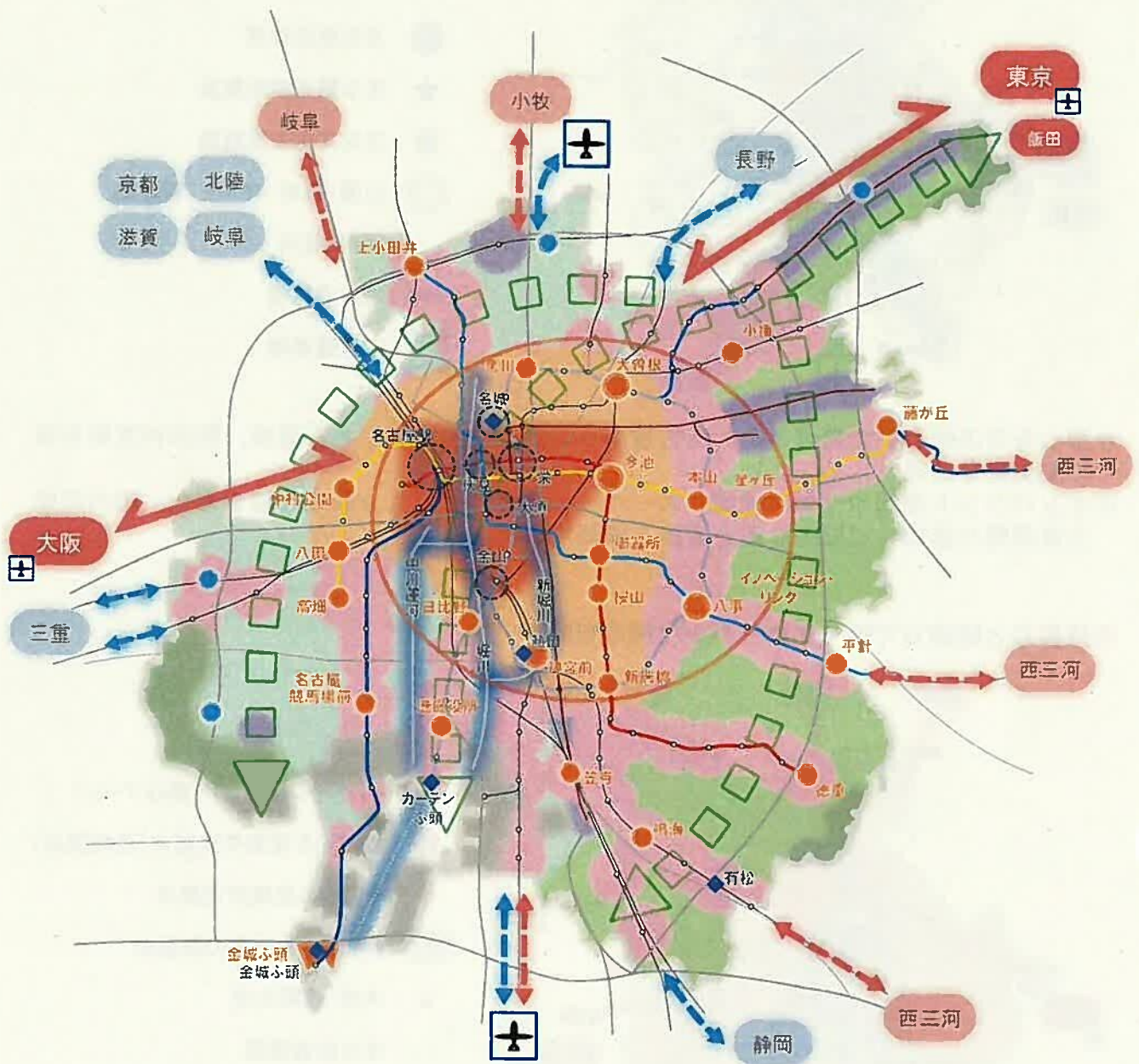


- イノベーション・コア(都心ゾーン)
- 広域的な産業交流拠点(地域拠点)
- ◆ その他の産業交流拠点
- 製造業、物流業の集積地
- 大学・短期大学
- 主な広域道路
- 水辺連携軸
- ⇄ 広域連携軸

- 高度な都市機能の集積地(イノベーション・コア)、水辺空間(イノベーション・ラボ)、大学の集積地(イノベーション・リング)等、多様な地域特性を生かしてイノベーションを促進する都市構造
- 国土の中心という地理性や陸海空の充実したインフラを生かし、ものづくり産業の操業環境やサプライチェーンの維持・向上、グローバルな交流を促進

4-3 将来都市構造図

基本的な視点や、都市づくりの目標の構造化を踏まえた、将来都市構造図を示す。



- 拠点市街地 -

都心ゾーン

地域拠点

- 駅そば市街地 -

都心周辺ゾーン

駅そばゾーン

準駅そばゾーン

- 郊外市街地 -

西部郊外ゾーン

東部郊外ゾーン

- その他のゾーン -

港湾産業ゾーン

自然共生ゾーン

近隣拠点…一定の都市機能が集積し地域拠点を補完している地区

鉄軌道 基幹バス路線 主な広域道路

環境軸(“みどり”のネットワーク) 水辺連携軸(都心ゾーン～名古屋港)

「楽しむ」連携軸 「創る・働く」連携軸 リニア連携軸

◆ 名古屋城を核とした魅力軸を形成する拠点

名古屋城を核とした魅力軸

ー 歴史・文化魅力軸 ー

名古屋城から熱田を介して有松に至るまで、名古屋の歴史や文化を現代に伝える貴重な場所として、文化・観光拠点としての魅力向上を図る軸

ー まちづくり・ものづくり魅力軸 ー

名古屋駅をはじめ堀川、中川運河及び名古屋港に至るまで、名古屋の大都市としてのイメージを牽引し、まちづくりと産業発展を支えてきた場所として、観光・賑わい資源としての魅力向上を図る軸

イノベーション・リング

…知的資源の源泉である大学が集積し、都心ゾーンを中心に高度な土地利用がなされた一帯において、新たな価値創造の場を創出するエリア

4-4 ゾーン毎の将来イメージ

- 拠点市街地（都心ゾーン） -

市域における 役割	魅力があふれ賑わう交流拠点 ・ 高次な都市機能が集積し、市民のみならず広域から人が集い、多様な交流活動が営まれる市街地。 ・ 最も高次な都市機能が集積し、圏域の中心として国内外から人が集い、スーパー・メガリージョンのセンターとなる圏域の中核としての役割を大きく担う。
まちづくりの 方針	・ リニア中央新幹線の開業やアジア競技大会の開催といった機会をとらえ、文化芸術を活かしたまちづくりや豊かな公共空間を活用した快適性の向上をはかる。 ・ また、圏域の発展を牽引していくために、産業競争力の強化につながる産業交流機能の強化や外国人にとっても訪れやすく活動しやすい環境の整備をはかり、都市の国際競争力を高める。

ー ライフスタイルイメージ（例）ー

- 職場と住居が近接し、徒歩や自転車にて通勤でき、朝夕の時間を有効活用できる。
- 身近に文化芸術を感じることができるなど、都心にふさわしい創造的で文化的な生活を送っている。
- 多言語の店舗看板や案内サインが立ち並び、グローバルな都市として、多くの外国人が生活し、また観光を満喫している。
- 休日は気軽に利用できる充実した公共交通により、まちなかを巡りショッピングを楽しんでいる。



都心ゾーン

リニア中央新幹線が開通する名古屋駅を擁する都心において、

スーパー・メガリージョンのセンターとなる中部圏の中核としての広域交流機能を強化

- 国内外から人を呼び込み、かつユニバーサルデザインにも配慮された魅力的な商業施設や文化施設、宿泊施設が充実
- 圏域の経済の中心地としての都心の発展に寄与する開発へのインセンティブ等により、国内外からの投資が活況
- 多言語に対応した医療、福祉施設など都市機能が集積
- 大学、研究所、ベンチャー・スタートアップ企業のオフィス、インキュベーション施設、コワーキングスペースなど、高度でクリエイティブな人材の活動拠点や主体間の交流、見本市や学会などの開催のための空間が充実
- 空地、空家、空きビル等の既存ストックがオフィスや工房に再生し、界限性のある空間が形成
- 職住近接や高い生活利便性に魅力を感じる世帯が住む、高密度な中高層住宅が立地し、商業・業務機能と調和のとれた立体的な都心居住が実現
- 高密度な空間において、上空・地上・地下の賑わいが連続し立体的な回遊性を実現
- 開発により高度利用がすすむ地区と、個性的・歴史的な界隈が残る地区が共存し、多様性のある賑わいが展開
- 高質な緑やオープンスペースの中でコミュニティ活動やイベント活動等が展開。また、クリエイティブな感性を刺激するとともにビジネスマッチング等の場としても利用。民間、地元により維持管理活用され、常に新しい魅力が発信
- 外縁部の駐車場でパーソナルモビリティやシェアサイクル等に気軽に乗り換えることができ、自動車の利用が抑制されるとともに歩行者の回遊性が向上。また、ゆとりのある歩道や賑わい空間の創出等により歩行者中心の道路空間が形成され、ウォーカブルなまちが実現
- 路面公共交通により、まちがシームレスにつながる人の往来が活発化。また、移動そのものが楽しめるようになり、走行する姿や快適な乗降・待合空間を含め、システム自体がまちのシンボルとして定着
- 多数の乗降客数を有する駅周辺において、治水対策や避難場所の確保がされるなど、発災時に帰宅困難者を出さないための環境が形成
- 災害時の業務継続を担保する自立分散型のエネルギーシステムが導入
- 低炭素でエネルギー効率の高いビルが立地し、IoT等の技術が使われたエネルギーの面的利用が拡大。またグリーンインフラの充実等により世界水準の環境性能が実現
- シンボリックな並木、建物、広告・案内サイン、車両等のデザインがゆとりと風格がある都市景観を演出。エリアマネジメントで、民間の創意工夫によるまちなみを実現

リニア中央新幹線の開業を控える中で、今後特に高度な都市機能を導入し、名古屋の顔、玄関口となるべき都心部と金山のめざす姿等について示す。

— 都心部（名古屋駅、伏見、栄、名城、大須を含むエリア） —

都心ゾーンの中でも特に多様で高度な都市機能が集積する都心部において、リニアインパクトを最大化し、世界都市 名古屋の象徴たる都市空間を形成

〔めざす姿〕

- 世界中から多様な人々を呼び込みイノベーションを創出
- 快適な都市空間に訪れる人々の賑わいが展開
- ゆとりを楽しむ名古屋ならではの洗練された都市生活を満喫

〔施策の方向性〕

- リニア効果を圏域に行き渡らせるための広域交通拠点にふさわしい都市基盤の整備
- 多様な人材の交流促進に資する都市機能の導入に対するインセンティブ付与
- 民間によるまちへの投資を促進するための合理的な規制緩和の実施
- 低未利用な公有地を活用した魅力ある開発の促進
- 名古屋駅周辺や久屋大通等の公共空間の再編・再生・創出
- 道路空間の再編による歩行車・公共交通主体の都市空間への転換
- 豊かな緑を生かした都市景観形成による風格ある都市の表情の創出
- 来訪者を受け入れる多種多様な宿泊・交流機能の強化
- 市民の憩いの場となる大規模公園や水辺空間等のグリーンインフラの保全・活用
- 環境に配慮した開発の誘導による良好で魅力的な都市環境の創出
- 市民生活の利便性に資する商業施設や福祉施設等の都市機能集積の維持向上
- エリアマネジメント等の活用となる公共的空間の再編・創出や利活用の推進 等

— 金山 —

名古屋城～熱田神宮の歴史軸と中部国際空港～名古屋駅の動線軸のクロスポイントにある金山駅（中部圏乗降客数第2位）のポテンシャルを生かし、交通拠点から交流拠点へ発展

〔めざす姿〕

- にぎわいというおいが継承され、更に発展
- 文化芸術や創造等拠点の集客性が向上
- 地域防災力が強化 ●交通結節点の機能が強化

〔施策の方向性〕

- 規制緩和や敷地の集約化などによる、実現性や効果の高い事業展開
- 歩行者ネットワークの確保や情報発信の連携・強化などによる回遊性の向上
- 既存施設の機能更新や活用による地域の集客性の向上
- 防災性向上のための退避施設等の確保
- 国内外の多種多様な来街者の将来ニーズに対応したサービスの提供 等

- 拠点市街地（地域拠点） -

市域における 役割	都心ゾーンを補完する、市内各地域の中心地 交通結節点等において、都心に次いで都市機能が集積する、市内各地域の中心となる市街地。近隣都市からも人々が訪れ、都心ゾーンを補完する役割を担う。
まちづくりの 方針	賑わいと生活利便性を高める施設の集積をはかり、周辺住民が訪れ賑わいのあるまちなみが駅を中心に広がるなど、快適なまちなかライフを過ごすことができる身近な拠点づくりをめざす。

ー ライフスタイルイメージ（例） ー

- 駅直近のマンションライフで通勤がしやすく、日常生活も住まいの近場で済ませられる。
- 都心ゾーン並に都市機能が充実しており、満たされたシティライフが送れている。



● 地域拠点

市内の主要な交通結節点等において、主に市民の生活利便性や豊かな都市活動を支えるための機能を集約

- 各拠点が支える後背圏の性格に応じた役割を担いながら、商業、文化施設や、医療、福祉、子育て施設などが充実
- 公共交通の利便性等を活かした中高層住宅が立地
- 公共交通機関を日常移動手段とし、高い生活利便性の中、多様なライフスタイル・ライフステージの人達が、歩いて暮らせる不自由のない日常生活を送っており、非日常を味わうための都心への移動も快適
- パーソナルモビリティやシェアサイクル等により歩行者の回遊性が向上。また、ゆとりのある歩道や賑わい空間の創出等により歩行者中心の道路空間が形成され、ウォーカブルなまちが実現
- 市民が休日に公共交通を使って訪れ、ショッピングや文化・レジャー活動、生涯学習、自ら参加できるフリーマーケットなどのイベント等にも参加し、駅周辺に集まる各所のコンテンツを回遊
- 利用者が多く他地域からの集客力が高い大曽根、今池、神宮前、星ヶ丘、八事においては、その強みを活かしたまちづくりが展開

- 駅そば市街地 -

市域における 役割

快適で利便性の高い居住環境を有する市街地

- ・地下鉄をはじめとした公共交通網の駅そばにおいて、利便性が高く歩いて暮らせる居住環境を有する市街地。駅そば市街地やその周辺の郊外市街地の住民のための生活利便施設が集積し、若者や高齢者をはじめ利便性を追求する居住ニーズに対応。

まちづくりの 方針

- ・利便性が高く住宅ストックも多数立地する鉄道駅周辺を中心に、良質な都市基盤を活かした既存住宅ストックや生活利便施設の有効活用や機能更新を重点的にはかるなど、就業世代や子育て世代、高齢者、障害者など様々な人々にとって生活しやすい、歩いて暮らせるまちづくりを進める。
- ・また、人口減少や高齢化の著しい区域では、居住地の持続性を高めるために、世代間バランスを考慮した若い世代の新規来住の促進等をはかる。
- ・災害の恐れがある区域では、災害リスクを踏まえた居住や土地利用をはかり、災害が生じた際における被害低減につなげるなど、安全・安心なまちづくりを進める。

ー ライフスタイルイメージ（例）ー

- 最寄り駅まで歩いた上で地下鉄などを利用して通勤している。帰宅の際には駅に立地する賑わい施設などを利用してアフターファイブを満喫している。
- 駅直近のマンションで利便性の高い生活を送ったり、昔からの住宅地において空き家をリノベーションし、こだわりの住宅ライフを送ったりしている。
- 日常的な生活は徒歩や自転車です。時々、鉄道に乗って最寄りの地域拠点でちょっとした自分へのご褒美を買ったりしている。



都心周辺ゾーン

都心ゾーン周辺の古くに整備された市街地において、都心との近傍性等の特性を生かした再生を推進

- ストックの再生がすすみ、単身者向け、夫婦・家族向け、高齢者向け、外国人向け、オフィス併設、シェアハウスなど、アフォーダブル（手ごろ）で多様な住まいが立地
- 医療施設、福祉施設、子育て施設などの都市機能が充実
- 土地区画整理等により形成された良質な住宅環境が維持
- 建物の耐震化や狭あい道路の改善等により防災性が向上するとともに、歴史性や界限性を残した市街地として再生
- 省エネ性や敷地内緑化など地球環境にも配慮した高質なストックが形成
- 市民の憩いや健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観の形成や防災空間として活用
- 特に駅直近では公共交通機関を日常移動手段とし、都心に隣接する高い利便性を活かした、中層住宅や商業・サービス・事務所が立地し中密度な市街地が形成
- 歩行者中心の道路空間が形成され、カーシェアリングが充実
- 都心隣接の利便性を生かし、多様な暮らし方、働き方が実現できる環境を整備

駅そばゾーン

駅を中心とした生活圏において、駅周辺やその後背圏の住民の日常生活を支える都市機能を向上

- 医療・福祉・子育て施設などの都市機能が充実し、高齢者からも、子育て世帯からも選ばれる住環境を形成し、世代バランスのよい市街地が実現
- 世代間の住み継ぎが行われ、良好な居住環境が維持
- 「西部郊外ゾーン」を后背地とするエリアの駅直近においては、商業・業務機能や中層の集合住宅が、駅の周辺には、中低層の集合住宅や戸建て住宅が立地し、中密度な市街地が形成
- 「東部郊外ゾーン」を后背圏とするエリアの駅直近においては、利便性の高い生活サービス機能が集積し、中高層住宅や中層住宅が立地
- 市民の憩いや健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観の形成や防災空間として活用
- 歴史的な資源が保全され、その地の旧来からの魅力が醸成
- 歩行者中心の道路空間が形成され、カーシェアリングが充実
- 日常生活機能の集積による利便性と、通勤・通学や都心へのアクセスの利便性を兼ね備えた環境が整備

準駅そばゾーン

基幹的なバス路線を中心とした生活圏において、利便性の高い住宅地としての機能を維持

- 幹線道路沿道では、中層住宅や周辺の居住者が利用する生活利便施設が立地
- 幹線道路沿道以外では、中低層の集合住宅や戸建て住宅が調和し中密度な市街地が形成
- 歩行者空間の充実等による利便性と安心・安全を兼ね備えた住宅地が形成
- 市民の憩いや健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観の形成や防災空間として活用
- 通勤・通学や都心へのアクセス利便性を確保する公共交通が維持
- 歩行者中心の道路空間が形成され、カーシェアリングが充実

- 郊外市街地 -

市域における 役割	「ゆとり」と「うるおい」がある居住環境を有する市街地 ・市の郊外部において、空間的なゆとりと自然豊かなうるおいがある居住環境を有する市街地。人口減少がすすむ中でも良質で持続的な居住環境が維持され、ファミリー層を中心にして多様な居住ニーズに対応。 ・また、充実した道路により近隣市町村と都市機能を相互に補完。
まちづくりの 方針	・戸建て居住ニーズへの対応や世代間バランスのとれた地域コミュニティの確保のため、ゆとりとうるおいのある居住環境の持続をはかる。 ・また、職住が近接し、アフォーダブルなものも含め様々な住まい方が可能な特性を生かしたまちづくりを進める。 ・今後の新たな宅地開発については、これまでの人口増加に対応する開発から、緑を生かしたゆとりとうるおいのある開発へ誘導していくとともに、緑地を保全し、過度な市街地拡大の抑制をはかる。 ・災害の恐れがある区域では、災害リスクを踏まえた居住や土地利用をはかり、災害が生じた際における被害低減につなげるなど、安心・安全なまちづくりを進める。

ー ライフスタイルイメージ（例）ー

- 最寄りの駅までバスや自転車等を利用して職場へ通勤したり、休日は自家用車で買い物に出かけたりしている。
- 休日は、近隣の家庭菜園で野菜を収穫したり、緑が広がるまちなみを通して公園まで散歩したりしている。
- 空き家をリフォームした戸建て住宅で、子どもがいる家庭が広々とした環境で満足した生活を送っている。



西部郊外ゾーン

多様な土地利用が混在した西部において、
職住が近接し多様な機能が調和した生活環境を形成

- 住宅地が広がる中で業務系の建物も立地し、職住が近接し多様な機能が調和した生活環境が形成
- 空き家での起業や空き地での家庭菜園など、ストックの再生によって様々なことを実現できる多様性に富んだ生活環境が形成
- 災害リスクを踏まえた居住や土地利用により、まちの防災性が向上
- 農地や水辺空間と一体となったゆとりある緑地空間が充実
- 鉄道駅等へ接続する公共交通インフラの持続性や利便性が確保

東部郊外ゾーン

緑豊かで良好な風致を有する東部丘陵地において、
ゆとりとうるおいのある生活環境を形成

- 戸建と低層の集合住宅からなる良好な住宅地で、自然環境と共存するゆとりとうるおいのある環境が形成
- ファミリー層を中心とした居住環境が形成され、子育て・教育施設等の都市機能が充実
- 災害時の避難体制や宅地の耐震化が図られ、安全な居住環境が形成
- 樹林地やため池など里山の風景が残る豊かな公園や緑地が充実するとともに、家庭菜園などで都市農地が多面的に活用
- 鉄道駅等へ接続する公共交通網の持続性や利便性が確保

- その他のゾーン -

■ 港湾産業ゾーン

名古屋港を擁する臨海部を中心に、集積した製造業や物流施設の操業環境の保全や機能の更新・高度化を推進

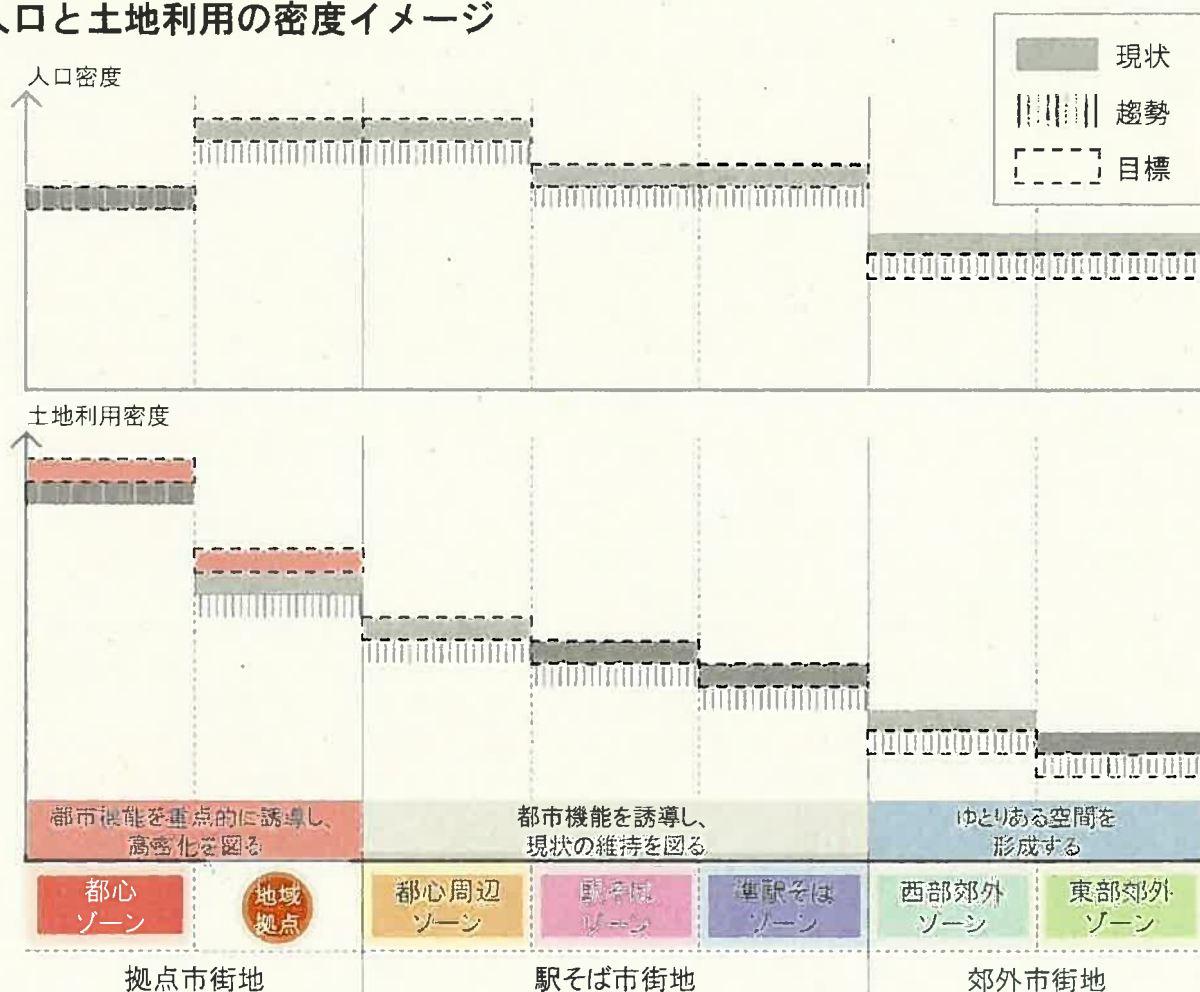
- 製造業や物流業等が操業し、経済活性化に寄与
- 名古屋港において、国際・国内海上輸送機能の強化や物流の効率化やアクセスの向上等が実現
- 津波、高潮等から守る防護機能の強化、施設の更新・強化により防災性が向上

■ 自然共生ゾーン

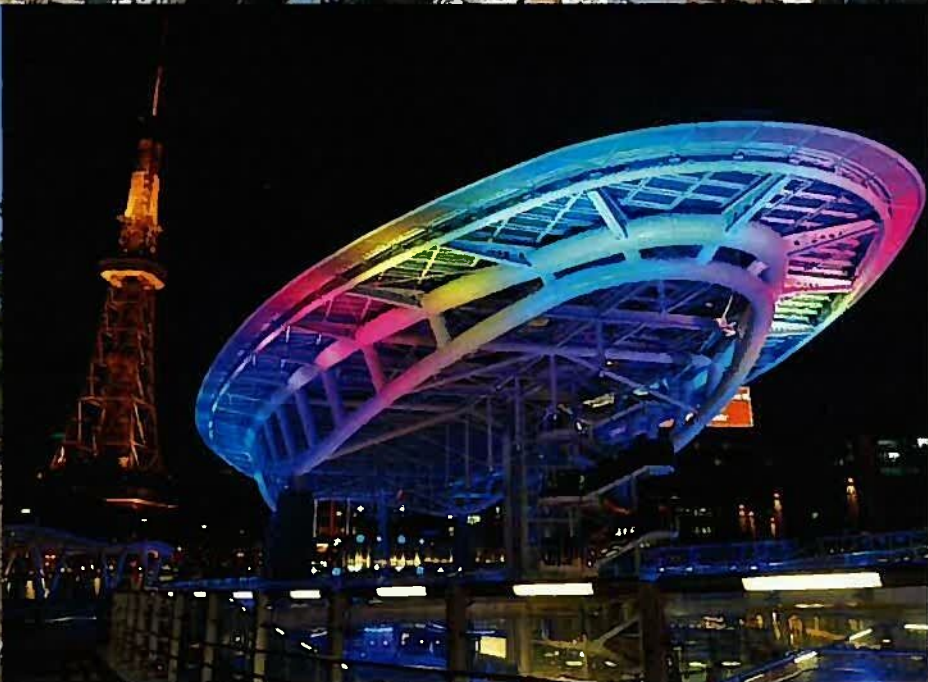
市街化調整区域において、現在の豊かな自然環境を維持保全を基本としながら、都市基盤の整備状況に応じた土地利用を展開

- 優良な農業生産基盤であるとともに、優れた自然風景や田園的風景、生物の生息・生育環境を有する豊かな自然環境が形成。都市にうるおいや快適性といった魅力をもたらし、生物多様性も確保
- 高速道路のインターチェンジ周辺等では、周辺の自然環境と調和しながら適切な都市機能が導入
- 農作物の直売所やレストラン、農業体験など都市農地が多面的に利活用

人口と土地利用の密度イメージ



都心部まちづくりビジョン (案) 名古屋市



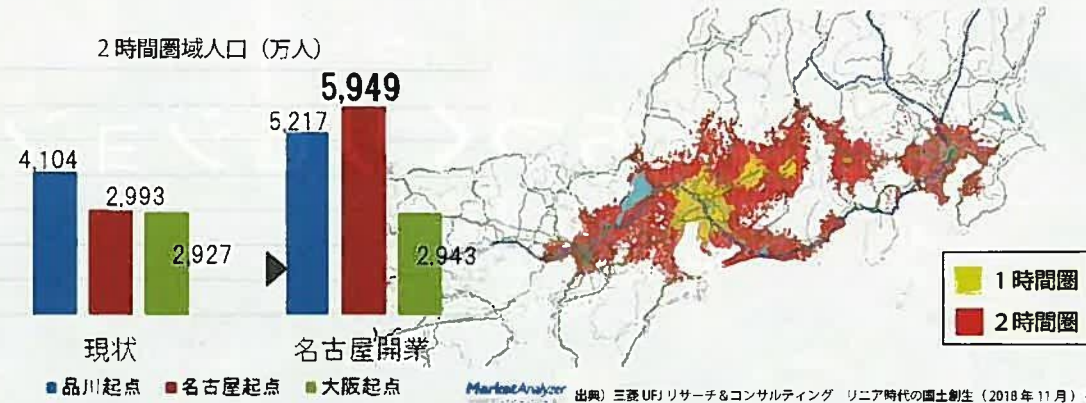
名古屋の都心は、2027年にリニア中央新幹線（品川・名古屋間）の開業を迎えることにより、名古屋大都市圏の中核としての重要性がこれまで以上に増すことになります。新たな時代を迎えるにあたり、これからも魅力と活力にあふれた名古屋の都心であるために、そして名古屋大都市圏を超えてスーパー・メガリージョンのセンターとして日本の成長エンジンとなるためには、官民協働によるまちづくりへの取組みを速やかに進めていくことが必要となります。

このため名古屋市では、行政と民間で共有できる都心部の将来像として、また、都心部を対象として策定された各種のまちづくり計画・構想を総括し全体の方向性を提示するものとして「都心部まちづくりビジョン」を策定することといたしました。また、本ビジョンの内容は、次期都市計画マスタープランの都心部部分に反映することを予定しています。

これから先十数年の間の我が国においては、2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業による国土構造の変化、技術革新による産業・社会構造の変化、少子高齢化の進展に伴う人口減少社会の到来など、様々な社会情勢の変化が起こり、とりわけ、現状においても様々な機能・就労人口・交通機関などが高度に集積した名古屋の都心は、まちづくりの最前線としてそれらの変化から大きな影響を受けることになると予想されます。ここでは、名古屋の都心を取り巻く状況とこれからの都心部のまちづくりの方向性を検討する土台とするため、リニア中央新幹線開業後の名古屋都心の今後を展望します。

1 リニア中央新幹線の開業、スーパー・メガリージョンの形成

●交流圏の拡大のイメージ（名古屋・品川開業時）

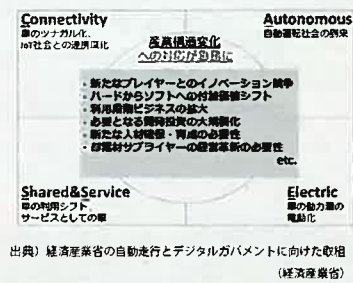


リニア中央新幹線の開業により、東京・名古屋・大阪の三大都市圏が一体となった圏域人口7,000万人からなる世界有数のスーパー・メガリージョンが形成され、これからの日本の成長エンジンとなることが期待されています。これに伴い、名古屋の都心についても圏域の中核としての役割がより一層重要となります。

三大都市圏それぞれの交流圏も大きく拡大し、とりわけ名古屋駅を起点とした2時間圏域人口は約6,000万人と最大規模になると試算されています。広域交流圏の誕生により、国内外からの来訪者が増加することから、**名古屋の都心における交流人口の増加も予想されますが、その一方でストロー現象を最小限に抑えることも必要になります。**

2 産業構造の転換（自動車産業における変革）

●自動車産業を取り巻くメガトレンド（CASE）

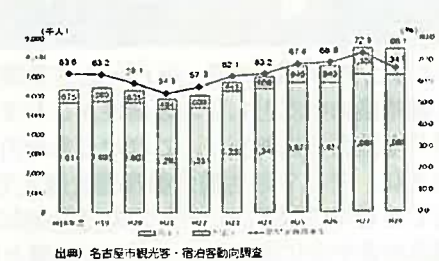


IoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）などの技術革新、各分野におけるイノベーションの加速度的な進展、新産業の登場などにより、新たな社会の実現が可能になり、私たちの働き方や暮らし方が大きく変わろうとしています。

特に自動車産業に関しては、「自動運転社会の到来」、「動力源の電動化」、「保有からシェアリングへのシフト」、「IoTとの連携」といった潮流のただ中であり、自動車産業をはじめとする輸送用機械を主体とした「ものづくり産業」のある圏域の産業構造や就労構造に劇的な変化をもたらす可能性があります。このため、圏域の中核である名古屋の都心においても、**産業・社会構造の変化への対応が急務となっています。**

3 観光需要の高まり

●名古屋市内における宿泊施設の宿泊客数延べ人数の推移



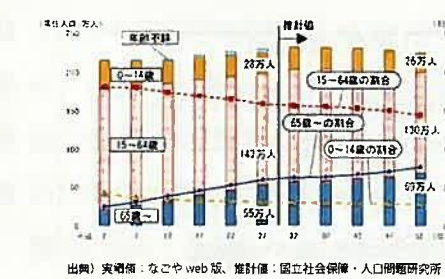
訪日外国人旅行者数の推移は2014年度から急速に増加しており、2030年の目標は6,000万人となっています。名古屋市内においても、訪日外国人の増加に伴い外国人宿泊客数の増加も顕著となりつつあり、市内の宿泊施設の収容人数や稼働率は2009年度から少しずつ上昇しています。

しかしながら、これまでのところ名古屋市内における外国人宿泊者数の絶対数については、他都市と比較すると少ない状況が続いており、インバウンド消費も東京都の10分の1以下の水準となっています。名古屋が外国人観光客に選ばれる目的地となるためには、**都心の一層の魅力向上が必要です。**加えて、昇龍道プロジェクトの起点として、周辺観光地との連携強化に資する宿泊機能の強化も必要です。

スーパー・メガリージョンとは、自治体よりも大きな単位での圏域を指す概念であり、東京、大阪、名古屋は既にメガリージョンと呼ばれる大都市圏域を作っているといえる。スーパー・メガリージョンは、その三大都市圏をそれぞれの持つ特徴を活かしつつリニア中央新幹線により一体化した世界最大の広域経済圏のこと。
イノベーション……技術革新。新機軸。経済成長の原動力となる革新。ここでいうイノベーションとは、単なる技術革新ではなく、従来のモノ、仕組み、組織を改革して社会的に意義のある新たな価値を創造する活動全般のこと。

4 人口構造・動態の変化

●名古屋市の年齢3階級別人口

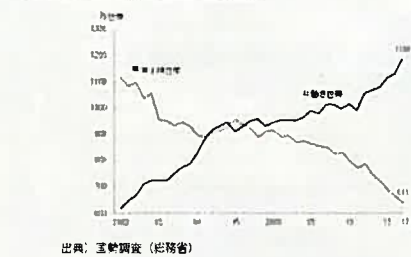


少子高齢化社会の進展に伴い、東海三県全体としての人口は既に減少局面に入っています。名古屋市内においても、2022年頃からは人口は減少に転じると推計されています。また、年少人口及び生産年齢人口の構成比率が低くなり、ますます高齢者人口の比率が高まるものと予測されています。一方、外国人人口は増加傾向にあり、特に名古屋の都心（中村区、中区）においては、その傾向が顕著になっています。

このように人口構造が大きく変わりつつある状況下において、高齢者にとっては生活利便性の高さの面で、若年層にとっては就労先の集積状況の面で、名古屋の都心は**都市型ライフスタイルを実現することの重要性が高まるものと考えられます。**

5 価値観や働き方等の多様化

●全国の共働き世帯の増加



女性の社会進出や共働き世帯数の増加、時間や場所にとらわれないテレワークを実施している企業が年々増えつつあるなど、働き方が多様化しつつあります。また、インターネットショッピングの普及やシェアリング・エコノミーの規模拡大、都心部を中心とした単身世帯の増加など、消費行動や暮らし方も同様に多様化しつつあります。こうした**働き方や暮らし方の多様化により、働く場、消費・暮らしの場としての都心の役割が変化しつつあります。**

働き方、暮らし方が多様化すれば**価値観も多様化**します。「誰もが自分らしく暮らせるまち」がこれまで以上に求められています。

6 激甚化する自然災害

●あらゆる可能性を考慮した最大クラスの震度分布



南海トラフにおいて、マグニチュード8～9クラスの地震が発生する確率は、今後30年以内に70%～80%と予測されています。また、地球温暖化の進展に伴い、記録的な豪雨が頻発する頻度も顕著に高まっています。

圏域の中核を担う都市機能が集積した名古屋の都心が被災した場合、豪雨による浸水や地震による液状化などの直接的な被害に加え、大量の帰宅困難者が発生するおそれがあり、圏域のみならず、広範囲に影響を及ぼすおそれがあると予想されます。このため、災害に対する**都市の強靱化や防災時の帰宅困難者対策等が課題**となっています。

7 都市の持続性に対する意識の高まり（SDGs等）

●持続可能な開発目標（SDGs）



気候変動対策や海洋資源の保全などの環境問題への取り組みや、貧困やジェンダーの問題に対する平等で包摂性のある社会の実現への取り組みなど、様々な分野において、SDGs等に基づいた**持続可能な世界の実現に向けた意識が高まっています。**まちづくりの分野においても、これからの都市のあるべき姿として、いつまでも住み続けることができるための取り組みが求められています。

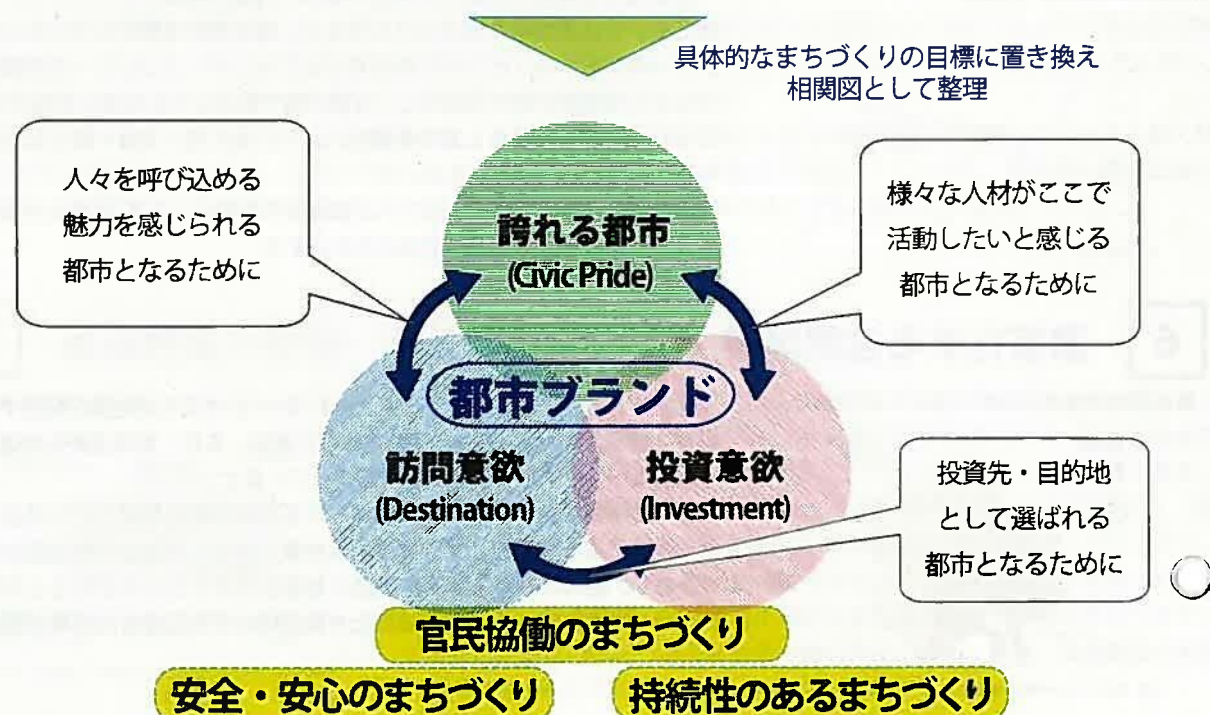
特に大規模な建築物が集中し、またリニア中央新幹線の開業により、多くの人々が訪れることとなる名古屋の都心においては、低炭素や省エネルギーなど様々な側面において環境に配慮したまちづくり、全ての人を受け入れることができる包摂性のあるまちづくりが必要です。

インバウンド……外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。
南海トラフ……日本列島に沿って日向灘沖まで延びる細長い凹地（トラフ）。水深4,000～4,800メートル。フィリピン海プレートの沈み込み帯にあたる。西南日本海溝。南海トラフ海盆。
SDGs……Sustainable Development Goalsの略称。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成される。

前頁で確認した「名古屋の都心を取り巻く状況」に基づき、これからの都心部のまちづくりに必要な視点を次のように設定します。

策定の視点

- 1) スーパー・メガリージョン形成による効果の最大化
- 2) 技術革新によってもたらされる産業構造の変化への対応
- 3) 来訪者を増やし交流を促進させる都市の魅力づくり
- 4) 圏域の中核機能と調和した都市型ライフスタイルの提示
- 5) 多種多様な市民活動のステージとなる都市環境の構築
- 6) 大規模災害に備えた都市の防災性能・災害対応力の強化
- 7) 持続可能なまちづくりの推進



策定の方針

上記の策定の視点及び相関図に基づき、都心部の都市構造、地区別・要素別のまちづくりビジョンに共通する3つの方針を設定します。

投資意欲

方針1 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備

訪問意欲

方針2 訪れたいまちを実現する都市魅力の向上

誇れる都市

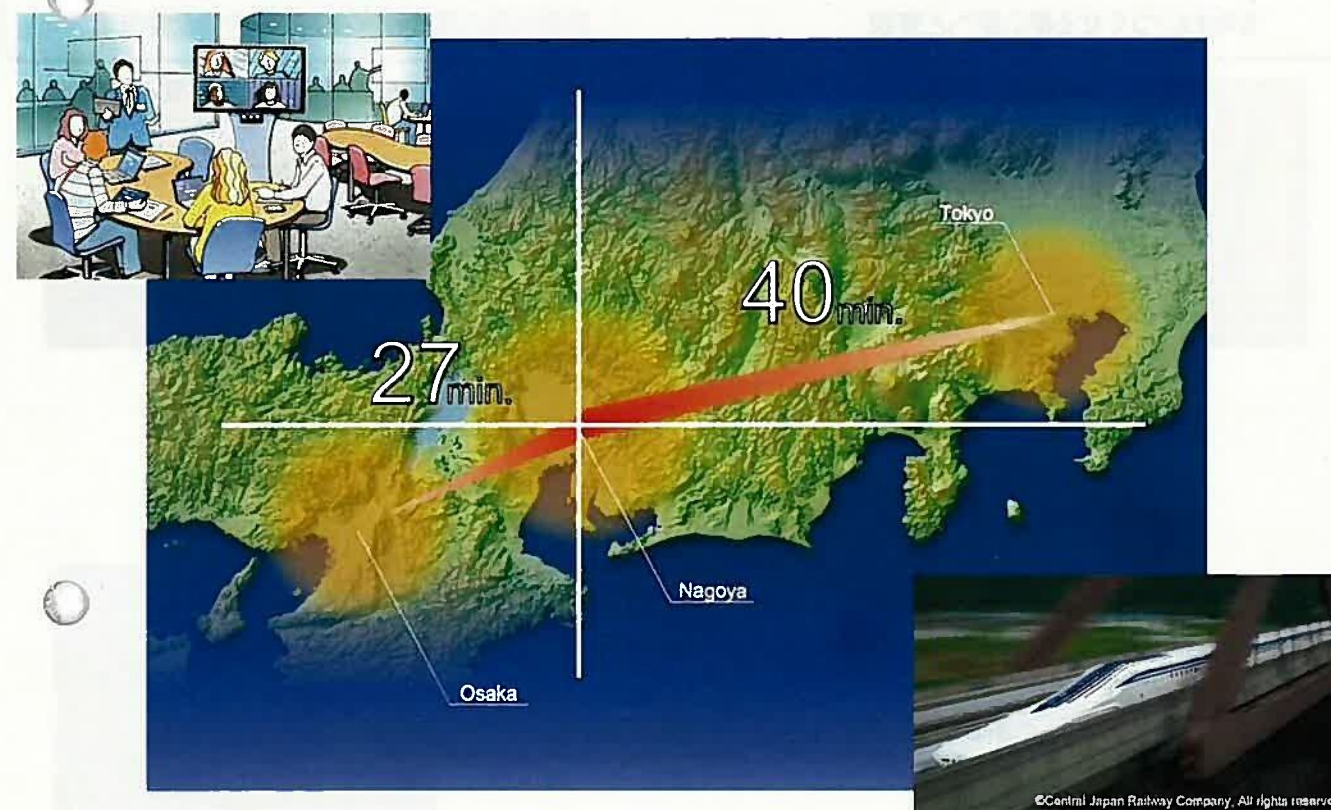
方針3 都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

方針1

国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備

【将来像】世界中から多様な人々を呼び込みイノベーションを創出するまち

- リニア中央新幹線の開業により、名古屋の都心部と東京が40分で結ばれ、スーパー・メガリージョンの中心に
- セントレアとも直結した名古屋の都心部は、名古屋駅を中心として大交流圏を形成
- 国内外から多種多様な職種・立場のビジネスパーソンやクリエイティブな人材が集まり、交流が促進
- 新たなアイデア・価値を生み出す人材の集積や、ベンチャー企業、研究機関等の立地が加速し、従来からの圏域の強みであるものづくり技術と結びつくことにより、イノベーションを創出
- 老朽建物の更新や災害発生時の帰宅困難者対策が推進され、災害への対応力が向上
- 名古屋の都心部は日本のみならず、世界経済を牽引するまちへと生まれ変わる



【実現に向けて】

- # 都市間競争の激化に対応するための圏域の有する特性・強みを向上させる都市機能の集積
- # リニア効果を圏域に行き渡らせるための広域交通拠点にふさわしい都市基盤の整備
- # 多様な人材の交流促進に資する都市機能を導入する開発に対するインセンティブの付与
- # ベンチャー企業の創業やイノベーションの促進などクリエイティブな人材に訴求するまちづくりの推進（先端技術等の実装の場としての街自体の活用、グリーンインフラの保全・活用による働く人にとっても魅力的な都市環境の創出等）
- # 民間によるまちへの投資を促進するための合理的な規制緩和の実施
- # 低未利用な公有地を活用した魅力ある開発の促進
- # 市街地環境の改善、都市再生安全確保計画の推進などによる都市の強靱化

グリーンインフラ……社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、緑地や河川などの自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力的な国土づくりや地域づくりを進めるもの。

方針2

訪れたいまちを実現する都市魅力の向上

【将来像】快適な都市空間に訪れる人々の賑わいが広がるまち

- 再生された久屋大通公園では様々なイベントが開催され、国内外から多くの人々が栄地区を訪訪
- 道路空間が歩いて楽しい歩行者優先のみちへと再配分され、環境にやさしい快適なまちになるとともに、名古屋の都心部を訪れる人々の賑わいがまち全体に展開
- 利便性の高い新たなモビリティの導入や、自転車利用環境の向上により、都心部の回遊性が向上
- 安全、安心、快適な地下街が形成され、周辺のビルと接続することにより、地上と地下が連続した立体的な賑わいを創出
- インバウンド需要から国際会議まで対応できる様々なグレードのホテルが立地
- 名古屋城などの歴史資産、劇場や美術館などの文化施設、人気の名古屋めしなど、名古屋ならではの魅力を味わいつくせる都心部へと変貌



【実現に向けて】

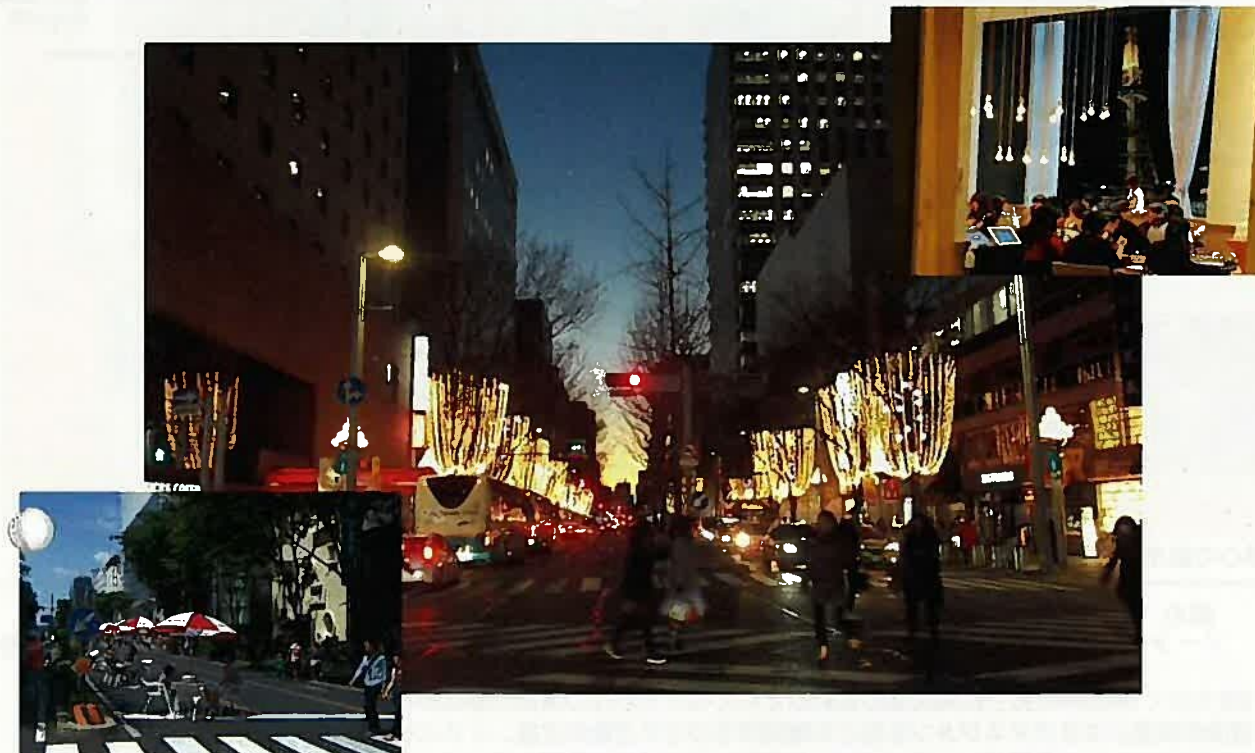
- #名古屋駅周辺や久屋大通等の公共空間の再編・再生・創出
- #民間事業者による建築更新等の機会を捉えたホールやイベントスペース等の機能の誘導
- #道路空間の再編による歩行者・公共交通主体の都市空間への転換
- #建物のセットバック等によって生み出すゆとりある都市空間と豊かな緑を活かした都市景観形成による風格ある都市の表情の創出
- #次世代型モビリティなど先端技術の実装による都市の魅力と利便性の向上
- #文化、歴史資産活用によるまちのストーリーの見える化によるまちの多様性の向上
- #拠点間での界限性の創出やネットワークの強化による回遊性の向上
- #昼も夜も安心して楽しむことができる防犯性の高い安全なまちづくりの推進
- #来訪者を受け入れるラグジュアリーホテルやゲストハウス等、多種多様な宿泊・交流機能の強化

方針3

都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

【将来像】ゆとりを楽しむ名古屋ならではの洗練された都市生活を満喫するまち

- 高級ブランド店や美しい夜景を楽しめるレストランなど、市民にとってハレの場となる都心部ならではの商業施設が集積
- ホールや美術館、カルチャーセンターなどの立地が進み、休日だけでなく仕事帰りでも気軽に芸術・文化に親しむことができる環境を創出
- 緑あふれる大規模公園や堀川などの水辺空間では、多くの市民がゆったりとした時間を満喫
- ユニバーサルデザインの推進などにより、道路・公園などの公共空間が一層洗練された空間として再編・創出され、エリアマネジメント活動など様々な市民活動が活発化するとともに、世代間の交流も促進
- 様々な価値観やライフスタイルを持った人々がまちに集い、誰もが自分らしく生活・活動することができる、都市生活の理想像を名古屋の都心部が実現



【実現に向けて】

- #ワンランク上の都市生活を体感できる高質な商業施設や芸術・文化施設及び都市生活の利便性に資する教育・医療・保育・福祉施設などの都市機能集積の維持・向上
- #市民の憩いの場となる大規模公園や堀川などの水辺空間等のグリーンインフラの保全・活用
- #緑化の推進など環境に配慮した開発計画へと誘導することによる良好で魅力的な都市環境の創出（ヒートアイランド現象への対策等）
- #エリアマネジメント等のまちづくり活動の場となる公共的空間の再編・創出や利活用の推進
- #ダイバーシティやソーシャルインクルージョンの考えに基づいたまちづくりを官民連携して推進することにより、全ての人が受け入れられ、活躍できる都市の姿を実現
- #地域交流活動の促進のための施設導入によるコミュニティの維持

ダイバーシティ………異質であることや、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、その違いを認め、活かしていこうという考えのこと。
 ソーシャルインクルージョン………社会的に弱い立場にある人々を社会から隔離・排除するのではなく、社会の中で共に助け合って生きていこうという考えのこと。
 ヒートアイランド現象………都市域の地上気温が周辺部に比べて高くなる現象で、都心部ほど気温が高く、等温線が島のような形になることからこう呼ばれている。都市ではコンクリートやアスファルトなど熱を蓄えやすい物質が多く、また諸活動から発生する熱量も大きいことなどが原因と考えられる。



【都心の都市構造】

都心ゾーン	広域的な交通網と結節し鉄道密度の高い地域 (おおむねJR中央本線・東海道本線、出来町通などで囲まれる範囲で名古屋駅周辺等を含む範囲)
都心部	都市機能が集積している名古屋駅・伏見・栄地区を中心として官庁街のある名城地区及び大須地区まで含む区域
拠点	ある程度の広がりをもって都市機能が高度あるいは特徴的に集積したエリアとして、地域の特性を活かした名古屋の顔となるまちづくりを目指す地区

【まちづくりの方向性】 広域交通の結節点としてのゲート性の演出、個性的な界隈の保全や都心居住による職住近接の推進、エリアマネジメントなどの地域まちづくり活動の支援、イノベーション拠点の形成など、市域の中心部にふさわしい多様性のあるまちづくりを進める。また、防災・環境への配慮、開発と保全のバランスにも配慮する。

【まちづくりの方向性】 土地の高度利用や都市機能の更新、イノベーションの創出を図ると同時に、那古野地区の四間道をはじめとする個性的な界隈においては、景観や地区の特性をしっかりと保全することにより、名古屋ならではの多様性ある中心市街地の形成を図る。

【まちづくりの方向性】 地域の特性を活かしたまちづくりを行うことにより、地区の名称を聞けば名古屋のまちの姿がイメージできるようなまちを目指す。名古屋駅地区、伏見地区、栄地区においては、特に重点的に民間投資の誘導を図る。

名古屋の都心に限らず、都市は駅前など都市機能が高度に集積した「拠点」、主要幹線道路などの「都市軸」など、様々な要素から成り立っています。

そして、これらの要素が組み合わさることによって都市はある種の「構造」として機能していると考えられます。

このため、本ビジョンにおいては、名古屋の都心の都市構造を要素ごとに捉え、それぞれの要素ごとにまちづくりのビジョンを策定します。

【都心ゾーン】

【都心部】

名古屋駅地区

～未来を体感し創造する交流のターミナル～



名城地区

～歴史と文化に彩られた名古屋のまちづくりの礎～



伏見地区

～職・住・遊びのマルチホーム～



栄地区

～訪れる人々が心を解き放つ都心のオアシス～



大須地区

～下町情緒とポップが交錯する庶民文化の象徴～



金山地区

～交通拠点から交流拠点へ～



リアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス、イノベーション拠点の形成

都市軸

都市の骨格を形成する主要な幹線道路及び河川・運河

【まちづくりの方向性】 沿道・沿線の低層階の店舗化、オープンカフェなどの公共空間の利活用、ウォークアブルな道路への空間再編、美しい街並みをつくる街路樹、良好な都市景観の形成等により、人の流れを生み出し都心各所を結び付けることにより、都市の賑わいの創出を目指す。

拠点連携

各拠点を有機的に結びつけることにより、都心部内の回遊性や都市機能を相乗的に向上させるための拠点間の連携

【まちづくりの方向性】 拠点間における複合的なまちづくり施策の展開によって都市の多様性や回遊性を高め、都市機能を相乗的に向上させるとともに、快適に移動できる交通手段も用意することにより、全ての来訪者にとって巡ってみたいくなるまちの実現を目指す。

※本ビジョンにおける「界隈」とは、主要駅の周辺や幹線道路沿道と比べると土地の利用度は高くはないものの、歴史性や下町の風情など独自の個性・魅力を持ったエリアのこととします。

※本ビジョンが主に対象としているのは都心部ですが、都心の都市構造の把握に際しましては、都心部に対する副次的な拠点としての位置づけとなる金山地区、及び金山地区を含めた都心ゾーンも記載しております。

《名古屋駅地区》 未来を体感し創造する交流のターミナル



国内外から来訪する人々を迎え入れるターミナル駅をつくり、駅周辺の総合交通結節機能の充実と再編を図ることで、約7,000万人交流圏の交通拠点を形成します

【実現に向けて】

- ・リニアの速達性を最大限に活かすよう、鉄道及び道路ネットワークを強化し、名古屋駅へのアクセス性を向上させることで、名古屋大都市圏域及び圏域間における人的交流の円滑化を図ります。
- ・リニアを含む多様な交通モードの乗換えがスムーズにできるよう、駅前広場や地下空間の整備を進め、人を呼び込み、迎え入れる交通結節点としての機能を強化します。
- ・国内外から来訪する人々を迎え入れるターミナル駅として、ユニバーサルデザインなどに基づき、鉄道、自動車、タクシー、徒歩など全ての利用者が満足し、円滑な移動ができる空間を形成します。

スーパー・メガリージョンの中心にふさわしい、
多様な人材の交流を促進し、日本を支える
新たな価値を生み出す、国際的・広域的な拠点・顔を形成します

【実現に向けて】

- ・新たな価値創造につながるイノベーション施設やMICE関連施設、広域からの来訪者をもてなす高質な宿泊施設や文化施設、外国人向けの生活利便施設等の都市機能の集積を促進することにより、国際的・広域的な拠点形成を図ります。
- ・駅前広場やその周辺において、名古屋圏の魅力伝える案内や文化発信の機能、来訪者の利便性向上に資する機能を強化・誘導し、ダイナミックな交流・もてなしの玄関口を形成します。また、リニア駅上部空間を活用し、人々が集い・憩い・交流する広場が中心にあるまちづくりを進めます。
- ・駅前広場や公共空間と沿道建物が一体となって、風格と都市の魅力を感じさせるシンボリックな都市景観の形成を図り、世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤにふさわしい空間をつくり出します。
- ・浸水対策や帰宅困難者対策、エネルギーの面的利用等、官民連携の取組みを推進し、安心・安全で環境に配慮したまちづくりを進めます。

魅力ある地域資源を活かした多彩なまちをつくり、
相互につなぐことで、一体性のある、
歩きたくなるまちを形成します

【実現に向けて】

- ・町家から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様な地域資源の魅力を高め、地域のまちづくりを進めることで、多様で特色あるまちを形成します。
- ・回遊性の高い魅力ある歩行者空間の形成を図るため、快適性の高い歩行者空間の整備や緑化、魅力的な店舗の立地や滞留空間の形成等を行い、人々の賑わいを広げます。
- ・駅前広場やその周辺において、店舗や広場などの効果的な配置により、賑わいを駅からまちへ、まちからまちへつなげます。
- ・都心全体の回遊性向上に資する多様な移動手段の発着地として、拠点の連携強化を進めます。



MICE…企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

《伏見地区》 職・住・遊のプラットホーム



芸術・文化施設、公園の緑や水辺空間、
歴史的建造物などによって醸し出される
芸術的・文化的な雰囲気を活かしたまちづくりを進めます

【実現に向けて】

- ・歴史的建造物の保存・活用や、公園の緑・水辺空間を活かしたまちづくりにより、落ち着いた街並みの形成を図ります。
- ・民間再開発等の機会を捉え、地区の特性を活かしたまちづくりや魅力資源の利活用を進めることにより、個性あるまちの表情を創出します。



良好な民間再開発の促進により、様々な都市機能と
調和した都心居住を実現するとともに、
地域住民によるまちづくり活動を支援します

【実現に向けて】

- ・市街地再開発事業等により、低層階の店舗化など都市の賑わいと調和した高質な住宅供給を促進するとともに、エネルギーの面的利用等、環境に配慮したまちづくりを進めます。
- ・民間再開発等による市街地整備とあわせてエリアマネジメント等の地域住民のまちづくり活動も支援することにより、低炭素モデル地区の形成など良好なまちの環境の保全を図ります。



リノベーションなどにより、意欲ある起業者の
創業を促進し、業務機能が集積している従来からの
地区の特性をより一層発展させます

【実現に向けて】

- ・空きビルのリノベーションなどによるスタートアップのための場づくりにより、起業に意欲のあるクリエイティブな人材による創業を促進します。

《栄地区》 訪れる人々が心を解き放つ都心のオアシス



大規模公園をはじめとした公共空間を洗練されたゆとりあるシンボル空間として再生・活用することにより、エリアの賑わいを都心全体に広げます

【実現に向けて】

- ・久屋大通を都心のシンボリックな空間として整備するとともに、様々なイベントの場として活用することで、都心の情報発信力を強化します。
- ・メインストリートに面した建物低層部への店舗配や溜り空間の設置、公園や通りと調和した景観形成により、公共空間と民有地が一体となった都市の賑わいを創出します。
- ・地下街や地下鉄駅などと地上の歩行者空間との連性を強化することで、新たな人の流れを創出します。



民間再開発の機会を捉え、様々な楽しみ方や働き方を提供する商業・娯楽・芸術・文化施設等やオフィス等の都市機能を導入し、多様な人材が集まる環境整備を推進します

【実現に向けて】

- ・商業・娯楽・芸術・文化施設等を導入することにより、来訪者をもてなす集客施設の集積を図ります。
- ・イノベーションの担い手となるクリエイティブな人材にとって魅力となる、多様な働き方が可能となる快適性の高いオフィスや交流・共創場の誘導を図ります。
- ・国際的な交流を促進するため、環境の良さを活かした都心型のMICE施設や高質なホテルの誘導を図ります。
- ・防災対策・エネルギーの面的利用等、官民連携の組みを推進し、安心・安全で環境に配慮したまちづくりを進めます。



エリアごとの様々な特色を活かした多様性のあるまちづくりを進めることにより、名古屋らしさを感じられる都心の魅力を向上します

【実現に向けて】

- ・地域と一体となった防犯性の高い安心・安全の取組を進めるとともに、夜景の演出や夜間のイベント開催などにより、夜も楽しめるまちづくりを促進します。
- ・エリアマネジメント活動の促進により、地元の主体性を活かした魅力的なまちづくりを支援します。
- ・面的な低層階店舗の誘導やベンチなどの休憩施設設置など、歩いて楽しい都市空間を創出し、エリア間の回遊性を高めます。
- ・中高層階に住宅を供給すべきエリアにおいては、体系的な都市機能誘導により、中枢機能と調和した都心居住を促進します。

《名城地区》 歴史と文化に彩られた 名古屋のまちづくりの礎



名古屋のまちづくりの礎たる歴史・文化資産を様々な形でまちづくりに活用することにより、奥行きと多様性のある都市の姿を実現します

【実現に向けて】

- ・名古屋城天守や本丸御殿などの歴史性に加え、重要文化財である市庁舎等や豊かな緑を有する官庁街の落ち着いた雰囲気や醸成することにより、名古屋都心部の奥行きと多様性を向上します。



他の拠点との連携を強化することにより、観光拠点の賑わいを都心全体に広げることで、都市の回遊性を向上させます

【実現に向けて】

- ・休日における官庁街のオープンスペースの利活用などにより、官庁街による人の流れの分断解消を図ります。

《大須地区》 下町情緒とポップが交錯する 庶民文化の象徴

大須観音や万松寺などの歴史的な資源と古着屋などの個性的な店舗の集積した商店街の情緒を大切にすることで、都心の魅力に多様性と彩りを添えます

【実現に向けて】

- ・老朽化・空き家化した店舗のリノベーションなどにより、街の雰囲気や保全しつつクリエイティブな空間づくりを促進し、創業に意欲のある人材を集め、まちの活気の維持を図ります。



コスプレやアニメなど「ポップカルチャーの聖地ナゴヤ」としてのブランド確立により、国内外から訪れる誰もが集い楽しめるまちの雰囲気を醸成します

【実現に向けて】

- ・手軽に様々なイベントが開催できるよう、まちなかに公開空地や広場などの小規模オープンスペースの整備を促進します。



都心部には100m道路である「久屋大通」や「若宮大通」をはじめとする広幅員の幹線道路が縦横に走っており、主要な移動経路としてだけでなく、その沿道において、商業・業務機能などが集まり都市の軸線を形成してきました。

また、都心部の貴重な水辺空間である「堀川」などについても都市を貫く軸としてクローズアップしていく必要があります。

主要幹線道路と河川・運河という都市の軸が賑わいというおいを創出する空間へと生まれ変わることにより、都心部の魅力と機能をより一層向上することとなります。

幹線道路と沿道のまちづくり

- 都心部のシンボリックな通りを人に優しく歩いて楽しいみちへ道路空間の再配分
- 沿道の民有地と一体となった快適な都市空間の整備による賑わいが連続した街並みの形成

【実現に向けて】

- 各幹線道路の交通機能を踏まえた、過度に流入する自動車交通量の抑制
- パークアンドライドの推進やフリンジ駐車場の活用による自動車の都心部への集中緩和
- シンボリックな通りにおける車道から歩道への空間再編や次世代型公共交通への対応
- 歩道上におけるベンチなどのストリートファニチャーの設置による歩行者の快適性向上
- 低層階の店舗化などに対するインセンティブ付与による民間投資の促進により、民有地と一体となった賑わいを道路空間にも創出
- 人にも優しく環境にも配慮した沿道環境とするため、シンボル並木の育成と民有地の緑化の推進

河川・運河沿岸のまちづくり

- 堀川・中川運河・新堀川の環境整備・水辺空間の魅力向上

【実現に向けて】

- 水辺環境の魅力向上のための水質の浄化への取り組み
- 水辺を感じ、憩う親水空間の整備等による水辺空間の魅力向上
- イベント開催や散策など水辺空間の利活用による水辺を楽しむ場の創出
- 河川・運河側に向けた店舗配置の誘導による河川・運河の表通り化
- 歴史や文化などで川と周辺のまちをつなぐ一体的な魅力創出
- 河川・運河の沿岸におけるクリエイティブな場づくり
- 水上交通の活性化及びそれと併せた河川・運河からの景観まちづくりのあり方検討



道路・水辺での一体的な取組み

- 沿道・沿岸の建物や広告物のデザイン誘導などによる良好な街並み・ファサードの形成や魅力的な夜景の創出
- 道路や水辺空間の良好な維持管理に資する、地元まちづくり団体との連携強化、エリアマネジメント活動の支援

都市軸のまちづくりの推進により、各拠点の賑わいを都心部に展開し、都心部内の各エリアを結びつけることで、名古屋の都心を一体的な構造へ



なごや交通まちづくりプランにおける自動車交通機能の整理

- 都市環状道路……都心中心核の外側に環状ネットワークを形成し、通過交通などを迂回誘導し、集約化する道路
- 都市アクセス道路……都市環状道路の内側で都心中心核の周縁にネットワークを形成し、都心部を目的とする交通を集約するとともに、可能な範囲で他の機能の充実を図る道路
- 多機能道路……自動車交通ネットワークの機能を自動車通行の迂回などにより減らし、自動車交通機能以外の機能を担わせる道路

賑わい交流軸

広小路通 「名古屋都心を象徴する東西軸」

都心部の主要な拠点を結ぶ名古屋を代表する東西のシンボルストリートとして、現存する歴史的建造物やシンボル並木を含めた良好な都市景観の形成と快適な歩行者空間の整備により、平行する錦通と連携して賑わいあふれる快適でうるおいある街の表情をつくります

名駅通 「名古屋の顔となる駅前の交流軸」

高次の都市機能の集積により、賑わいの連続性を図るとともに、名古屋の顔となる駅前のメインストリートとして、圏域の玄関口にふさわしい風格のある街並みをつくります

久屋大通 「緑豊かな開放感あふれる南北軸」

栄地区の象徴たる緑豊かな久屋大通公園を含む南北のシンボルストリートかつエリア有数のイベント空間として、沿道の土地利用と一体となった開放感にあふれた都市空間を形成し、街を訪れる人々に憩い・うるおいと楽しさを提供します

大津通 「トレンドの先端をゆく魅力発信軸」

歩行者天国も実施される圏域屈指の賑わいあふれる通りとして、洗練された魅力的な店舗と人々の憩いとなる並木が連続した、老若男女誰もが楽しめる賑やかで快適な街並みをつくります

桜通

「ターミナル駅の正面に位置する景観軸」

名古屋駅の正面に位置する特性を活かし、名古屋に降り立った来訪者が最初に目にする景観として印象に残る空間を形成します

本町通

「名古屋城下町の歴史をたどる回遊軸」

名古屋城と熱田を結ぶ旧街道に由来する通りとして、名古屋の歴史を感じながら都心を回遊できる仕掛けをつくります

三蔵通

「起業意欲と感性を刺激する創造軸」

都心部の主要なビジネス拠点を結ぶ通りとして、起業意欲を促し、クリエイティブな人々を刺激する創造性豊かな雰囲気をつくります

個性的で多様性ある都心部を実現するための主たる都市軸の将来像

水辺空間軸

堀川・中川運河・新堀川 「都心の水の魅力軸」

都心部における貴重な水辺空間として、水質の浄化などにより、都市環境の快適性を向上させるとともに、イベント開催などの水辺の利活用、水上交通の活性化、夜景の演出、沿岸の景観整備などにより魅力的な都市空間を創出し、都市のブランド力を高めます

拠点連携のまちづくり

各拠点の持つ機能を有機的に結びつけることで都心部内の回遊性を高めるとともに、都心全体の都市機能を相乗的に向上
あわせて、歩きやすい道路整備に加え、既存の公共交通の利便性向上、新たな路面公共交通システム等により、手軽に利用できる移動手段を確保



『分断要素の解消』

『地域資源の活用』

都市の多様性・回遊性を向上
都市機能を相乗的に向上

『界隈の魅力向上』



都心界隈は、主要駅の周辺や幹線道路沿道に比べると、土地の利用度は高くはないものの、歴史性や下町の風情など独自の個性・魅力を保全・開拓することで、都市の多様性を向上
あわせて、エリアマネジメント等の地域のまちづくりを積極的に支援

都心界隈のまちづくり

■名古屋駅西とつながる都心界隈

○亀島・則武・米野地区

- 商店街等の賑わい軸を活かし、駅とのつながりを形成する歩いて楽しいまち
- 名古屋駅と秀吉ゆかりの中村公園をつなぐまち
- 名古屋駅に近接する利便性を活かし、共同住宅、戸建て住宅と生活を支える商業施設などが立地するまち
- 旧集落に由来する界隈性と防災公園のあるまち

■名古屋駅地区～伏見・大須地区

ビジネス機能の中核である名古屋駅地区と伏見地区・大須地区の中間地点において、各地区が相乗的に都市機能を向上させるための拠点連携

【実現に向けて】

- 老朽化したビルの建替え誘導やリノベーションなどによるベンチャー企業の起業促進
- 空きオフィスのオーナーと起業家とのマッチング
- 水辺の活用や緑化の推進による良好なビジネス環境の醸成
- 公共施設整備による低未利用地等の土地利用転換の誘導



○柳橋地区

- 名古屋駅至近に位置しながら、100年以上もこの地域の食文化を支え、新鮮な食材があふれる市場のあるまち

○名駅南地区

- 大規模な低未利用地の土地利用が進むことにより、様々なひと・まち・文化がクロスし、クリエイティブな取組みが盛んなまち

○納屋橋地区

- 堀川周辺において、近代名古屋の歴史が残り、都心部の貴重な水辺空間を活用したにぎわいのあるまち
- 城下町の名残をとどめる山車蔵や寺社のあるまち

■都心南部の拠点とつながる都心界隈

○大須一丁目地区

- 若宮大通沿道はオフィス、また南側は共同住宅が立地することにより、隣接する名古屋駅地区、大須地区、伏見地区とともに発展するまち

○千代田地区

- 共同住宅に加え、大須、若宮大通、新堀川、鶴舞公園・名大病院に近接する地区として、オフィス、小規模店舗、小規模事業所等が集積するまち

■伏見地区・栄地区～大須地区

分断要素となっている若宮大通を白川公園も含めたオープンスペースとして活用することにより、栄地区・伏見地区と大須地区の間の人の流れを誘導する拠点連携

【実現に向けて】

- 若宮大通の高架下のイベント活用等
- 南北横断のしやすさ改善
- 若宮パークのフリンジ駐車場としての利用促進



■名古屋駅北とつながる都心界隈

○則武新町地区

- ものづくり文化・歴史資産を活かした産業観光施設、豊かな緑の環境を備えた賑わい施設、都心居住を促進する共同住宅などが立地するまち



■名古屋駅地区～名城地区

四間道の歴史的町並み・下町情緒ある円頓寺商店街・堀川の水辺空間や城下町のまち割りなどを巡ることで、名古屋の歴史に想いを馳せながら、名古屋を訪れた人々を名古屋城まで導く歴史・観光の拠点連携

【実現に向けて】

- 城下町の面影を今に伝える土蔵群や町家などの歴史的な町並みの保全、及びリノベーション等による活用の促進
- 地区内を手軽に巡れる移動手段の確保

○幅下・新道地区

- 菓子や玩具などの問屋街、扇子などの伝統的な手工業が集積する名古屋の伝統産業の雰囲気を残すまち

○那古野地区

- どこか懐かしい古き良き雰囲気のある円頓寺商店街や、清洲越しにより堀川端に形成された商人町の面影を残す土蔵群や町家などの歴史資産を有する四間道のある、歴史資産と住環境の調和がとれた街並みを次代に継承するまち



■栄地区～名城地区

天守閣木造復元や金シャチ横丁などで観光名所としての存在感を増す名城地区と再生される久屋大通の間の分断を解消し、来訪者の賑わいを結ぶ拠点連携

【実現に向けて】

- 国の重要文化財である市庁舎等の活用や休日における官庁街のオープンスペース開放などの検討
- 近代建築が点在する「文化のみち」を有する白壁・主税・榑木地区も含め、両地区を有機的に結びつける方策の検討

○白壁・主税・榑木地区

- 古くは武家地、明治期は陶磁器産業の中心地として栄え、近代洋風建築をはじめとする門・塀や豊かな緑が今なお残る閑静なまち



■都心北部の拠点とつながる都心界隈

○丸の内地区

- 桜通沿道はオフィス街、北側は小規模オフィスも入る共同住宅が立地するまち
- 名古屋城下の名残をとどめる那古野神社、東照宮のあるまち

■伏見地区～栄地区

コンサートホールや美術館などが集積している伏見地区と栄地区に共通する特性を活かし、芸術や文化に親しむ人々の回遊を促す拠点連携

【実現に向けて】

- 両地区で共通したテーマを設定することによる施設間の連携
- 芸術・文化施設を訪れた人々をもてなす飲食店舗の集積



民間投資の促進による都市機能誘導

目指すべきまちの将来像を実現するためには、必要となる都市機能を導入しなくてはなりません。開発計画の内容に応じた容積率の緩和等をインセンティブとして付与し、民間投資を促進することにより、必要となる都市機能の導入を官民協働で図ります。

＜都心部における土地の高度利用＞

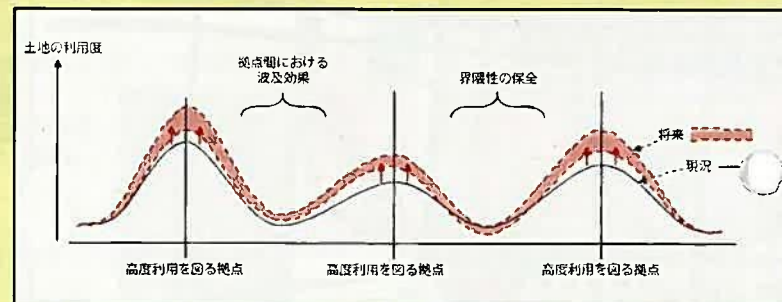
都心部のうち、特に名古屋駅地区・伏見地区・栄地区及びこの3つの拠点をつなぐ幹線道路の沿道においては、都市基盤や土地利用の状況を鑑みながら容積率を見直すとともに、地区計画等によって必要な都市機能の導入を誘導しつつ土地利用の健全な高度利用を図ることにより、圏域の中核としての拠点性を一層高めます。また、都心部全体においても、各拠点における土地利用の高度化の波及効果によって土地利用を活性化します。

特に都心部において導入を促進したい都市機能

- ・イノベーション創出を促進する MICE の開催などにつながるビジネス交流機能
- ・インバウンドを含む来訪者や MICE 開催の受け皿となる宿泊機能
- ・都心ならではの魅力を高める商業・娯楽・文化芸術施設などの集客機能
- ・賑わいの連続性を生み出す低層階で連担した店舗
- ・イノベーションや新たなビジネスの担い手となるクリエイティブな人材を集める快適で多様なオフィス
- ・大規模災害発生時における帰宅困難者の一時受け入れ施設や雨水貯留施設等の防災機能

＜メリハリのある土地利用＞

ただし、個性的な界隈については、都市の多彩な魅力を引き出すため、界限性を保全します。開発誘導と界隈保全の両立を図る土地利用制度を検討し、メリハリのある土地利用を実現します。



地域の多様な主体によるまちづくりの促進

開発事業者だけでなく、地域の多様な主体によるまちづくり活動が、これからの都心部のまちづくりにとって大きな力となります。このため、公共施設の良好な管理や賑わいを創出するイベントの開催などのエリアマネジメントをはじめとする地域のまちづくりの促進を図ります。

＜地域のまちづくりへの支援＞

地域で活動しているまちづくり団体等による、地域のまちづくり構想等の策定、道路・公園などのクリーンアップキャンペーンやイベントの開催などのまちづくり活動に対し、地域まちづくり制度をはじめとする支援により、地域のまちづくりを活性化させます。

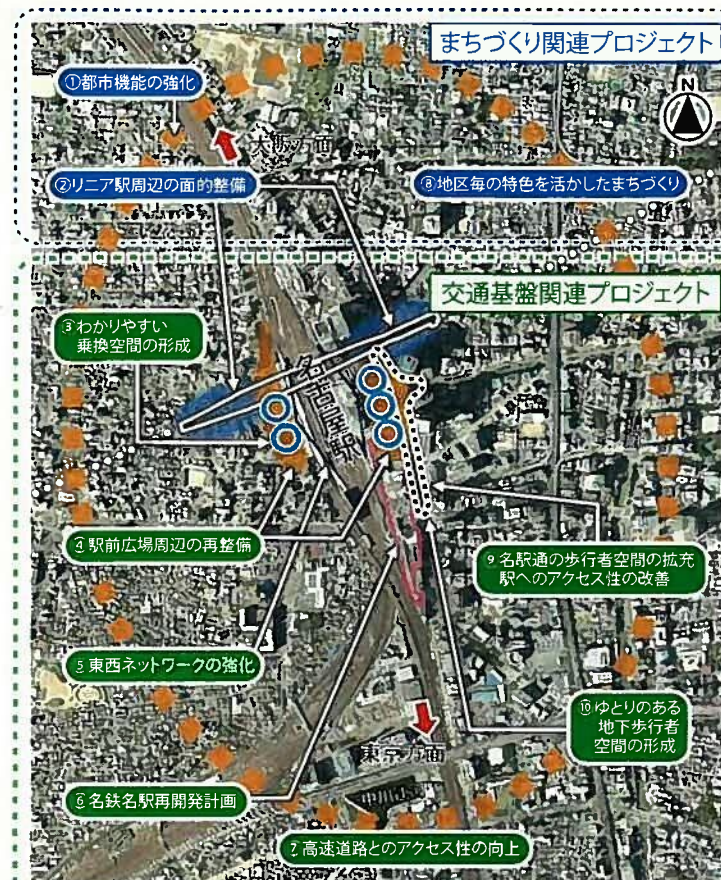
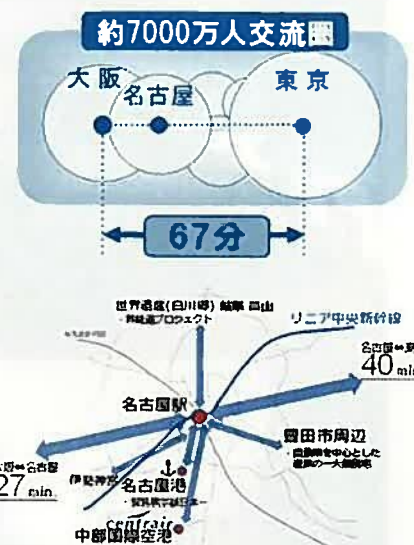


「イベントの開催」栄ミナミ音楽祭

(参考) 名古屋市の主な取組み

名古屋駅のスーパーターミナル化

東京～大阪間でリニアが開業すれば、東京・名古屋・大阪の3大都市圏が約1時間で結ばれ、名古屋は世界最大の7,000万人規模の交流圏の中心に位置することとなります。多種・多様な人材がダイナミックに交流し、日本を支える新たな価値を創造する都市の玄関口として、様々なまちづくりプロジェクトをすすめていきます。



久屋大通の再生

2027年のリニア中央新幹線の開業までの期間を対象に、栄地区のまちづくりを実現するための基本方針として2013年に策定した「栄地区グランドビジョン」に基づき、栄地区の活性化の起爆剤として久屋大通の再生を進めています。

北エリア・テレビ塔エリアでは、Park-PFI 制度を活用した整備運営事業者を公募し、2020 年の供用開始を目指して、広場や魅力的な収容施設の整備などを行います。

また、南エリアについても、2020年以降の事業化を目指して検討を進めています。



(北エリアの再生イメージ)

新たな路面公共交通システム（SRT）の導入

名古屋駅や栄、名古屋城、大須など、都心部の魅力ある地域をつないで回遊性を高め、賑わいを面的に拡大する新たな都市のインフラです。

2019 年 1 月に、実現を目指すシステムの姿を示した構想を策定し、2027 年のリニア中央新幹線開業に向けた段階的な導入について検討を進めています。



走行空間のイメージ

乗降・待合空間のイメージ

堀川の再生

名古屋城築城と時を同じくして開削された「名古屋の母なる川“堀川”」において、治水機能の向上、水辺環境の改善、水辺のにぎわいづくりの3つを基本方針とし、「うるおいと活気の都市軸“堀川”の再生」を進めています。

市の中心部を南北に流れる堀川では、貴重な水辺空間として、市民団体との協働による水質浄化の取り組みなどにより、良好な水辺環境の形成を図るとともに、オープンカフェやイベントを実施するなど、水辺空間の活用によるさらなる魅力づくりを進めています。





ノリダケの森



松通



堀川



中川運河・郷留



金シャチ横丁



四間通



長者町織姫街



アスナル金山